

授業科目名	心理学	単位認定者	西村昭徳
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義を中心に授業を行う(視聴覚教材やワークを用いて可能な限り体験的に学習する)
科目の目的	心理学の基礎を学ぶと同時に、心理学的な視点から自己理解・他者理解を深める
学習到達目標	1.心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する 2.心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る 3.心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす
関連科目	臨床心理学、発達心理学、カウンセリング
成績評価方法	出席状況、受講態度・意欲、期末試験を基にして総合的に評価を行う

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	心理学を学ぶ意義	医療と心理学、心理学の領域	【精神看護学】 目標2	
2	物理的世界と心の世界	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性	1.精神看護の基本概念 B.精神分析モデル a)フロイトの発達論、b)転移感情、c)自我の防衛機制	
3	記憶と注意の心理	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、高齢者の記憶 記憶の障害、ワーキングメモリと注意機能	【必修問題】 -1人間の特性 A 人間と欲求 a) 基本的欲求、b)社会的欲求	
4	学習のメカニズム	古典的学習、オペラント学習、観察学習	【精神看護学】 目標1	
5	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、社会的欲求、欲求の階層、 欲求不満と葛藤	1.精神の健康 B.精神の機能と障害 a)意識と意識障害、b)知能と知能障害、c)知覚と知覚障害 d)思考と思考障害、e)感情と感情障害、f)意欲と意欲障害、g)記憶と記憶障害、h)認知と認知障害	
6	心理学的性格論	性格とは何か?、性格の類型論と特性論	【必修問題】 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う	
7	心理学的性格論	性格検査とその活用	2人間の成長と発達 B 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 e) 母子関係	
8	成長と発達の心理	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論	【精神看護学】 目標1	
9	集団行動の心理	集団の分類、リーダーシップ	1.精神の健康 A 精神の構造 a)意識・前意識・無意識 b)イド・自我・超自我	
10	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、寛大効果	【成人看護学】 目標1	
11	健康と異常	健康の定義、ポジティブ心理学	2.成人に特有な健康問題の特徴 C 生活ストレスに関連する健康障害 a)ストレスの種類と生理的適応、b)生活ストレスと健康障害	
12	臨床心理学	ストレスと心の病理		
13	カウンセリングと心理療法	カウンセリングの理論と方法、看護におけるカウンセリングマインド		
14	カウンセリングと心理療法	医療現場における様々な心理学的介入		
15	まとめ			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<p>【基礎看護学】</p> <p>目標 2</p> <p>1. 共通基本技術</p> <p>A 人間関係を成立し発展させるための技術</p> <p>a) コミュニケーション技術、b) カウンセリング技術、c) グループワーク、グループダイナミクス</p> <p>B 人間の成長を促すための技術</p> <p>a) 教育、b) 相談・指導</p> <p>【小児看護学】</p> <p>目標 1</p> <p>2. 子どもの成長と発達</p> <p>C. 心理社会的発達</p>	

教科書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山 祐嗣、山口 素子、小林 知博編著（北大路書房）
参考書	授業中に適宜紹介する

授業科目名	生命倫理	単位認定者	森川 功
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	生命倫理の基本原則について学び、具体的な事案の倫理的是非について第三者的な立場から論じることができるようになるとともに、人の存在価値に関する概念的対立について学び、具体的な事案の当事者として自己の主張を論理的に展開することができるようになることを目的とする。
学習到達目標	1. 現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2. 基本的な倫理原則について説明できる。 3. 具体的な事案の倫理的是非について少なくとも第三者的な立場から論じることができる。
関連科目	看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、医療民俗学、法学
成績評価方法	レポート(複数回提出)の成績および授業への貢献度(質疑応答など)により総合的に判断する。履修者の理解の程度によってはテストを実施する場合もあり得る。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生命倫理とは	倫理と道徳 生命倫理学とは 生命倫理学の成立に影響した数々の出来事 ナチスによる人体実験 ニュルンベルク綱領 タスキギー梅毒研究 ウィローブルック研究 ユダヤ慢性病院事件 何故にいま生命倫理学なのか	必修問題  4 看護の倫理 A 基本的人権の擁護 a 個人の尊厳 b 患者の権利 c 自己決定権	
2	倫理理論と種々の倫理原則	倫理理論 直観主義 義務尊重主義 結果尊重主義 権利重視の倫理 種々の倫理原則(看護倫理を含む)	基礎看護学 目標1 1 看護の基礎となる概念 E 看護倫理 a 患者の権利擁護 b 患者のプライバシー保護 c 看護師の倫理規定 d 職業倫理	
3	基本倫理原則(1)	侵害回避の原則 ヒポクラテスの誓い 避けるべき害悪 ガン告知と専門家の守秘義務 二重効果の原則 医療行為の是非 恩恵の原則 互恵の確保 恩恵を与える義務に対する制約 義務を負うか否かを判断するための考慮事由 パターナリズム 最善の利益 生体的な善とその他の善	必修問題  5 保健師助産師看護師法 A 看護職員の業務と義務 c 守秘義務	
4	基本倫理原則(2)	自律の原則 自律とは 自律を行使するために必要とされる能力 イマヌエル・カント 医療に関する観念としての自由 情報の開示 事前指示書 リビング・ウィル	在宅看護論 目標1 3 在宅看護の特徴 A 生活の自立支援 b 自己決定  老年看護学 目標2 1 老年看護学の基本的考え方	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
5	基本倫理原則(3)	カレン・アン・クインラン事件 持続的代理決定委任状 ナンシー・クルーザン事件 自律の原則の優先性  公正の原則 資源配分 マクロな配分とミクロな配分 資源の稀少性 恩恵(利益)と害悪(負担)の配分 公正の概念 公正な資源配分に関する理論 功利主義理論 マクシミン理論 平等主義理論 臓器移植における患者の選抜を事例として	C 老年看護における倫理的課題 a 自己決定 6 高齢者の終末期の看護 A 終末期にある高齢者の看護 b 死の迎え方の意向(リビング・ウィル)と対応  社会保障制度と生活者の健康 目標4 1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 A 医療サービスの供給体制 i 臓器移植法  必修問題 4 看護の倫理 A 基本的人権の擁護 d インフォームド・コンセント 精神看護学 目標3 1 精神医療看護の歴史と人権・倫理 B 患者の権利 a インフォームド・コンセント 必修問題 1 人間の特性 B 患者の特性 a QOL(クオリティ・オブ・ライフ) 2 人間の成長と発達 A 胎児期 a 形態的発達 母性看護学 目標1および2 2 人間の性と生殖 A ヒトの発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子 D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医療 成人看護学 目標3 5 終末期の看護 A 緩和ケア b 疼痛コントロール c QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の保証 老年看護学 目標2 C 老年看護における倫理的課題 b 資源の公正な配分 c 高齢者差別 d 虐待・身体拘束	
6	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントに関する種々の誤解 インフォームド・コンセントの概念 治療法選択の段階でのインフォームド・コンセント インフォームド・コンセントの構成要素 患者による理解と決定のための「患者の意思能力」 重要情報の「医師による開示」 医学的処置の「医師による推薦」 開示された情報などの「患者による理解」 医学的処置を支持する「患者の決定」 支持する決定における「患者の自由意思」 医学的処置の実行に関する「患者による授権」	精神看護学 目標3 1 精神医療看護の歴史と人権・倫理 B 患者の権利 a インフォームド・コンセント 必修問題 1 人間の特性 B 患者の特性 a QOL(クオリティ・オブ・ライフ) 2 人間の成長と発達 A 胎児期 a 形態的発達 母性看護学 目標1および2 2 人間の性と生殖 A ヒトの発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子 D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医療 成人看護学 目標3 5 終末期の看護 A 緩和ケア b 疼痛コントロール c QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の保証 老年看護学 目標2 C 老年看護における倫理的課題 b 資源の公正な配分 c 高齢者差別 d 虐待・身体拘束	
7	生命の神聖さ(SOL)と生の質(QOL)	人とはいかなる存在であるのか 生命とその属性 SOLの概念 QOLの概念 SOL対QOL	人間の特性 B 患者の特性 a QOL(クオリティ・オブ・ライフ) 2 人間の成長と発達 A 胎児期 a 形態的発達 母性看護学 目標1および2 2 人間の性と生殖 A ヒトの発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子 D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医療 成人看護学 目標3 5 終末期の看護 A 緩和ケア b 疼痛コントロール c QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の保証 老年看護学 目標2 C 老年看護における倫理的課題 b 資源の公正な配分 c 高齢者差別 d 虐待・身体拘束	
8 ~ 15	個別的な論題および種々の事案の紹介と検討	個別的な論題については履修者が希望するものを取りあげる。特に希望がない場合には、 1) 高齢患者による治療拒否 2) 植物状態患者(死の定義) 3) 安楽死 4) 生殖補助医療 5) 出生前検査・診断 6) 新生児医療 などを論題として採りあげ、種々の事案の倫理的是非の検討を行なう予定である。	5 終末期の看護 A 緩和ケア b 疼痛コントロール c QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の保証 老年看護学 目標2 C 老年看護における倫理的課題 b 資源の公正な配分 c 高齢者差別 d 虐待・身体拘束	

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	「生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント」森川 功(じほう、2002年) その他については、講義中に適宜指示する。

授業科目名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	本授業では、「教育」について一般的・基本的事項を講義する。 意図的な「教育」は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の場において教育的配慮が必要であることは言うまでもない。教員や親としてはもとより、医療従事者にとっても必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論など）を理解し、広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。 青少年の問題行動について関心を持ち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができるようにする。
関 連 科 目	家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	教育	「教育」を考える 個の資質・家庭・学校・社会・制度	必修問題 目標 . 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。	地域看護学 目標 . 地域で生活する人々の健康問題の解決や地域の健康課題の組織的な解決に関する地域看護勝つ独の基礎的な考え方の理解を問う。
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」	6. 人間の特性 A. 人間と欲求 a. 基本的欲求 b. 社会的欲求	2. 地域看護学の構成 A. 活動領域 b. 学校
3	学と習 (動機付け)	「覚える」「分かる」 動機づけ(外的・内的) 事例研究	7. 人間の成長と発達 C. 幼児期 d. 言語発達 e. 社会性の発達 D. 学童期 b. 社会性の発達 c. 学習に基づく行動	地域看護学 目標 . 学校保健、産業保健、在宅ケア・在宅看護、災害時の保健活動について、それぞれの理念と目的、制度システム、健康課題、展開方法についての理解を問う。
4	心の教育	宗教的心情の教育 道徳教育	小児看護学 目標 . 子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護実践についての理解を問う	1. 学校保健 D. 学校保健の対象と健康課題
5	発達と教育	教育の適時性 胎児期・乳児期 児童期・青年前期	6. 学童の健康の増進のための看護 A. 学童の健康増進とセルフケアの発達 c. 学校への適応 d. 学習と遊び	a. 発達段階別健康課題 b. 不登校 c. 障害児(発達障害を含む) d. いじめ、虐待、事故 e. 日常的な医療の実施を必要とする児
6	学校教育 学校教育の効果	教育内容 教育方法 事例研究	7. 思春期の子どもの健康増進のための看護 B. 思春期の子どもがいる家族への看護 b. 子どもの問題行動と家族関係	
7	教育制度	「量の教育」から「質の教育」へ 「知識」から「学び方」へ 教育課程		
8	ゆれる教育改革	現行の教育制度 教育制度の変遷 「生きる力」と「問題解決の能力」		
9	教育関係法	教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係		
10	学校不適應	学校不適應・いじめ・引きこもり 事例研究		
11	特別支援教育	心身に障害のある児童 発達に偏りのある児童 インテグレーション・・・		
12	まとめ			

教 科 書	プリントによる
参 考 書	授業時に紹介

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期集中
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	伝統的な誕生と死に関する文化は大きく変化しようとしている。日本人が長く持ち伝えたまじないや言い伝えの中から病気観や身体観に関する身近なデータを分かりやすく紹介し、日本人の生命観と医療文化について学ぶ。
学習到達目標	(1) 誕生と死に関する民俗の過去と現在について知る。 (2) 病気・健康の歴史と文化を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目 生命倫理 家族学
成績評価方法	定期試験と出席状況で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	(1) 俗信・暦と医療文化 (2) 出産と医療文化 (3) 生命観と医療文化	くしゃみをしたら(俗信と靈魂) 入院の日は選べない(大安と仏滅) 病は気から(元気の語源) 今年の干支は寅年(干支の知識) あの年は出生数46万人減(俗信と近代医療) 子育て幽霊(産死と身体観) 読めない名前(現代の名付け) たかが名前されど名前(名前の意味) 双子は石を投げられた(双子観の変化) 男性産婆の話(助産文化とジェンダー) どちらにしようかな(まじないと医療) 徒然草を読む(生と死の文化) 長寿銭を知ってる?(長寿銭と長寿観) 看取りと臨終(介護問題と家族) いつが死なのか?(伝統文化と医療)	必修 目標 .看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。  10.生命倫理 C.人の死 a.死の三徴候 b.死亡判定 c.脳死 d.死の受容過程	

教科書	『誕生と死の民俗学』 板橋春夫著 吉川弘文館
参考書	

授業科目名	健康スポーツ理論	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	選 択

指導方法	テキストを中心に講義する。講義内容の理解を深めるために、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連するスポーツや健康の話題について報告する。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科目の目的	看護師の資格を目指す学生に対して、スポーツ科学および運動生理学の側面から身体におよぼす運動の効果、健康づくりを実践するための理論について学習する。
学習到達目標	運動における生体の生理的变化（筋・神経系、呼吸循環系、肥満・代謝系など）の概論が理解できる。教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関連科目	生理学、解剖学
成績評価方法	定期試験・出席点の総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ガイダンス	講義概要・運動生理学の学習の意義について	必修 目標 . 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害の回復についての基礎的知識を問う。  12. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 f. メタボリックシンドローム	
2	筋の機能と役割	筋線維の種類とその特徴		
3	障害とスポーツ	車いすバスケットボール		
4	筋の機能と役割	筋の収縮様式と筋力		
5	運動と呼吸	運動と循環		
6	運動と呼吸	運動と呼吸		
7	運動と内分泌	運動とホルモン		
8	運動と肥満	身体組成と肥満		
9	運動処方	運動処方・車いすバスケットボール		
10	運動と生活習慣病	メタボリックシンドローム、肥満の最近の知見		
11	運動と体温	運動と体温調節		
12	運動と疲労	筋疲労の要因		
13	運動と老化	老化にともなう身体機能の変化		
14	運動と栄養	運動と栄養、運動選手の栄養		
15	まとめ	まとめ		

教科書	「入門運動生理学」勝田 茂（杏林書院）
参考書	講義時に随時案内

授業科目名	健康スポーツ実技	単位認定者	近藤照彦
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	高山キャンパスの体育館、高山運動公園グランドおよび高山キャンパス周辺において、健康づくりを実践するための実技を行う。からだの調整(コンディショニング)としてウォーキングを中心に、次第に個人の体力レベルとモチベーションを高めることを目標とする。スポーツは、体育館およびグランドで行える選択制のレクリエーションスポーツとする。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科目の目的	健康スポーツ理論の実践として健康増進、体力向上のための運動を行う。生涯スポーツ、レクリエーション参加を通じた生活の質の向上を実践する。スポーツの実践を通してクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学習到達目標	健康のための運動の実践と体力の向上を到達目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法	出席、意欲、態度および実技能力での総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ガイダンス	講義概要の解説(高崎キャンパス教室)		
2	実技1(2コマ)	高山キャンパス、キャンパス周辺、グランド、体育館 コンディショニング(体力の調整)、ストレッチ ウォーキング、健康度調査など		
3				
4				
5	実技2(2コマ)	高山キャンパス、コンディショニング(体力の調整) 12分間走トレーニング		
6	実技3(2コマ)	高山キャンパス、12分間走テスト コンディショニング(体力の調整)		
7				
8	実技4(2コマ)	高山キャンパス、12分間走テスト予備日 グランド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
9				
10	実技5(2コマ)	高山キャンパス、グランド選択スポーツ、テニス選択 グランド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
11				
12				
13	実技6(2コマ)	グランド選択スポーツ、テニス選択 体育館車いすバスケットボール		
14	実技7(2コマ)	高山キャンパス、グランド選択スポーツ、テニス選択 グランド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
15				

教科書	
参考書	

授業科目名	英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。講義と受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組める力をつける。 専門分野の基本英語語彙力をつける。
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語、英語表現の習得。
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、前期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Introduction	授業の説明、自己紹介		
2	(Reading) Unit 1 (会話) Unit 1	Colds, Flu and Folk Advice 急に話しかけられたときの対応		
3	(Reading) Unit 1 (会話) Unit 2	Colds, Flu and Folk Advice 自己紹介のときの基本的質問と答え方		
4	(Reading) Unit 2 (会話) Unit 3	Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection 丁寧な質問の仕方、数字の読み方		
5	(Reading) Unit 2 (会話) Unit 3	Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection 丁寧な質問の仕方、数字の読み方		
6	(Reading) Unit 3 (会話) Unit 4	Drinking Beer Could Provide Health Benefits 初診の患者さんへの基本的質問		
7	(Reading) Unit 3 (会話) Unit 4	Drinking Beer Could Provide Health Benefits 初診の患者さんへの基本的質問		
8	(Reading) Unit 4 (会話) Unit 5	Alcohol, the Asian Flush and the Risk of Cancer 病院内での道順の尋ね方と答え方		
9	(Reading) Unit 4 (会話) Unit 5	Alcohol, the Asian Flush and the Risk of Cancer 病院内での道順の尋ね方と答え方		
10	(Reading) Unit 5 (会話) Unit 6	Cancer May Soon Be World's Leading Killer 症状の尋ね方		
11	(Reading) Unit 5 (会話) Unit 6	Cancer May Soon Be World's Leading Killer 症状の尋ね方		
12	(Reading) Unit 6 (会話) Unit 7	Insomnia 症状の尋ね方		
13	(Reading) Unit 6 (会話) Unit 7	Insomnia 症状の尋ね方		
14	復習	Readingの復習		
15	まとめ			

教 科 書	近藤 進、Gerald R. Gordon, 吉岡みのり著 <i>Caregiver</i> (『世界に見る医療と看護』)、朝日出版社、2010年。 知念クリスティーン&上瀧真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005年。
参 考 書	英和辞書

授業科目名	英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストとプリントに沿って進める。講義と受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	英語Ⅰで養成した専門分野の英語に取り組める力の発展。 専門用語語彙力の発展。
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語語彙力、英語表現力の向上。
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語Ⅰ 看護学のための基礎英語 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、後期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	(Reading) Unit 7 (会話) Unit 8	The Mystery of Dreams and Dreaming 病歴の尋ね方		
2	(Reading) Unit 7 (会話) Unit 8	The Mystery of Dreams and Dreaming 病歴の尋ね方		
3	(Reading) Unit 8 (会話) Unit 9	Headache 薬の服用に関する表現		
4	(Reading) Unit 8 (会話) Unit 9	Headache 薬の服用に関する表現		
5	(Reading) Unit 9 (会話) Unit 10	Saving Preterm Babies with an Idea from Nature 予約の取り方		
6	(Reading) Unit 9 (会話) Unit 10	Saving Preterm Babies with an Idea from Nature 予約の取り方		
7	(Reading) Unit 10 (会話) Unit 11	Looking for New Uses for Spices in the Medical Lab 手術に関する表現		
8	(Reading) Unit 10 (会話) Unit 11	Looking for New Uses for Spices in the Medical Lab 手術に関する表現		
9	(Reading) Unit 11 (会話) Unit 12	Feeling No Pain: The World of Anesthesia 入院患者さんへの一般的質問		
10	(Reading) Unit 11 (会話) Unit 12	Feeling No Pain: The World of Anesthesia 入院患者さんへの一般的質問		
11	(Reading) Unit 12 (会話)	How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses Skit 作成		
12	(Reading) Unit 12 (会話)	How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses Skit 作成		
13	(会話)	Skit 発表会		
14	復習	Reading の復習		
15	まとめ			

教 科 書	知念クリスティーン&上瀬真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005年。
参 考 書	英和辞書

授業科目名	英語表現	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って進めるが、適宜プリントも使用する。受講者の授業参加。
科目の目的	Listening, Reading, Speaking を通して様々な英語表現に触れ、理解を深め、writing にもつなげる。
学習到達目標	より高度な専門分野の英語表現の習得。専門分野以外の場面での英語表現の習得。パラグラフ writing の習得。
関連科目	【関連する教養科目】英語Ⅰ 英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、後期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	会話&読解 1	Unit 6 産婦人科での表現		
2	会話&読解 2	Unit 6 産婦人科での表現		
3	会話&読解 3	Unit 6 産婦人科での表現		
4	会話&読解 4	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
5	会話&読解 5	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
6	会話&読解 6	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
7	会話&読解 7	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
8	会話&読解 8	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
9	会話&読解 9	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
10	Writing 1	Paragraph writing の基礎		
11	Writing 2	Paragraph writing の基礎		
12	Writing 3	英語で書いてみる		
13	Writing 4	英語で書いてみる		
14	Writing 5	英語で書いてみる		
15	まとめ			

教科書	知念クリスティーン&迫 和子著 『クリスティーンのリベルアップ看護英会話』、医学書院 2005年 Writing はプリントを使用。
参考書	英和辞典

授業科目名	ステップアップ英語	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	プリントにより進める。講義と受講者の授業参加。
科目の目的	専門分野の文献が読める力の強化。将来の進学や就職に備えて読解力、リスニング力の強化。
学習到達目標	専門分野の英語文献が正しく理解できる。英語専門用語の定着。リスニング力の向上。
関連科目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 英語表現 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、後期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
2	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
3	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
4	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
5	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
6	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
7	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
8	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
9	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
10	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
11	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
12	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度のリスニング問題		
13	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度のリスニング問題		
14	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度のリスニング問題		
15	まとめ			

教科書	プリントを使用する。
参考書	英和辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループでの会話練習等。
科 目 の 目 的	「読む、書く、聞く、話す」の四能力のうち、特に「聞く、話す」に重点を置きながら、日常会話ができる語学力を習得させる。また、中国語学習を通じて、中国の社会状況、地理、文化、歴史、生活習慣などを理解する。多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である。それを習得するには、毎日の練習と個々の指導が不可欠である。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらう。また日本語と違うところも判ってもらう。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気を作り、日常会話ができる基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記試験を行う。出席数、受講時の学力と試験成績を参考の上、成績を評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	発音の基本	1. ガイダンス、母音、四声		
2	発音練習	2. 母音、子音、四声		
3	発音練習	3. 音節表の読む練習		
4	レッスン1, 2	4. 挨拶、自己紹介		
5	レッスン3, 4, 5	5. 数字、曜日		
6	レッスン6, 7	6. 時刻、月日		
7	日常会話1,	7. 動詞「是」の用法		
8	日常会話2	8. 指示詞と疑問詞		
9	日常会話3, 4	9. 副詞		
10	日常会話5, 6	10. 動詞「有」の用法		
11	日常会話7	11. 動詞「在」の用法		
12	日常会話8	12. 年齢の尋ね方		
13	日常会話9	13. 値段の尋ね方		
14	日常会話10	14. 形容詞の表現		
15	まとめ	15. まとめ		

教 科 書	「医療系学生の初級中国語」山田真一 著(白帝社)
参 考 書	

授業科目名	コリア語	単位認定者	金子福子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	コリア語の基礎を学ぶとともに、韓国の社会や文化への理解を深める。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・あいさつをはじめ、身近で簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>
関連科目	国際看護論
成績評価方法	授業中に数回小テストを行う。期末テストを行い、総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	第1課	<p>コリア語は言語構造が日本語と非常によく似ていることから学びやすい言語といえる。しかし、表記された文字と実際の発音が異なることも多いため、正確な発音を習得するまでには少々時間を要する。そこで、発音の練習を徹底的に行いながら、基本文法や語彙、会話を体系的に学んでいく。</p> <p>前半は読む力・書く力を養うとともに、身近で簡単な日常会話を身につけていく。後半には映画を鑑賞することを通し、聞く力を養っていく。おりにふれて、韓国の社会や文化についてビデオを通して学ぶ。</p> <p><b>&lt;文字と発音&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングルの読み方(1) 基本母音と二重母音</li> <li>・ハングルの読み方(2) 基本子音と濃音</li> <li>・ハングルの読み方(3) パッチム</li> <li>・映像資料を通して韓国文化を学ぶ</li> </ul> <p><b>&lt;文法と会話&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私はイミエです」</li> <li>・「名前は何ですか」</li> <li>・「これは机です」</li> <li>・「ここはどこですか」</li> <li>・「もしもし」</li> <li>・「私も映画が好きです」</li> <li>・「ビビンバありますか」</li> <li>・「韓国語を勉強しています」</li> <li>・「ソウルに行きたいです」</li> <li>・韓国映画を通して聞き取り練習</li> <li>・まとめ</li> </ul>		
2	第2課			
3	第3課			
4	韓国の文化紹介			
5	第4課			
6	第5課			
7	第6課			
8	第7課			
9	第8課			
10	第9課			
11	第10課			
12	第11課			
13	第12課			
14	ヒアリング			
15	まとめ			

教科書	「ハッピー・コリアン」 金賢信・金菊熙 著 (白帝社) CD付
参考書	「携帯版 韓国語会話とっさのひとこと辞典」 金裕鴻 著 (DHC刊)

授業科目名	家族学	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</li> <li>自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</li> <li>サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</li> </ol>
関連科目	<p>【関連し合う教養科目】 ジェンダー論 地域社会学 法学</p> <p>【この科目が基盤となる専門科目】</p> <p>看護学入門、看護学概論、母性看護学概論、地域看護学概論 在宅看護論</p>
成績評価方法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	<p>【社会保障制度と生活者の健康】</p> <p>目標1人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う</p> <p>1.生活基盤</p> <p>A.生活単位</p> <p>a)家族(世帯) b)住居、</p> <p>c)家族周期</p> <p>A.家庭生活の基本機能</p> <p>a)生産・労働</p> <p>2.ライフスタイル</p> <p>A.家族の機能と役割</p> <p>a)夫婦の役割機能の変化、b)家族内介護者の変化</p> <p>c)育児と介護の社会化、</p> <p>d)家事機能の変化</p> <p>1.生活基盤</p> <p>B.家庭生活の基本機能</p> <p>b)教育・養育、c)保健・福祉、d)生殖、</p> <p>d)慰安・交流</p> <p>1.生活基盤</p> <p>B.生活単位</p> <p>a)家族(世帯)</p> <p>【必修問題】</p> <p>看護の社会的側面のよび倫理的側面に関する基礎的知識を問う</p> <p>4看護の倫理</p> <p>A.基本的人権の擁護</p> <p>a)個人の尊厳 b)患者の権利 c)自己決定権</p>	<p>【地域看護学】</p> <p>目標1地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う</p> <p>2.地域看護学の構成</p> <p>B活動対象</p> <p>a)個人・家族</p> <p>【地域看護学】</p> <p>目標:あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近方法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う</p> <p>3.家庭訪問</p> <p>A家族保健指導</p> <p>a)家族の発達段階と課題</p> <p>3.家庭訪問</p> <p>A家族保健指導</p> <p>a)家族の発達段階と課題</p> <p>【地域看護学】</p> <p>目標2地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と、健康課題への個人ならびに地域組織の対処行動についての理解力を問う</p> <p>3.社会環境の変化と健康課題</p> <p>C健康に影響する生活環境要因</p>
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース		
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスク - 夫婦と子どもから成る家族の場合: 家族形成期、産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期		
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面: 家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから		
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面: 就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族		
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面: 感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ		
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻		
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見		
9	家族をめぐる制度(3)	民法第五編 相続		
10	家族をめぐる制度(4)	戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の代代的継続の象徴 - 氏と墓 “夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案		
11	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環 稼得: 収入と所得、所得の種類、賃金とその内訳		
12	家庭経済(2)	モノの購入 - 家計支出、家計支出の内訳、家事労働: 消費と労働力の再生産、家事労働の種類、貯蓄: 貯蓄の意味、種類		
13	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣 食生活		
14	生活習慣(2)	家族と生活習慣 喫煙、飲酒		
15	まとめ	まとめ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			d)ノーマライゼーション <b>【必修問題】</b> ・看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 3患者と家族 A 家族の機能 a) 家族関係 <b>【社会保障制度と生活者の健康】</b> 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1 . 家族の機能と役割 c) 育児と介護の社会化 2 . ライフスタイル A. ライフスタイルの変化 a) 少子化、健康寿命の延長 e) 家族観の多様化 3 . 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B . 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	b)生活構造 c)家族形態 d)労働形態 <b>【地域看護学】</b> 3 . 家庭訪問 A 家族保健指導 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 6 . 母子保健指導 D 健康上のリスクをもつ母子への保健指導 b) 就労女性 <b>【地域看護学】</b> 2 . 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 <b>【地域看護学】</b> 6 . 母子保健指導 D 健康上のリスクをもつ母子への保健指導 c) 子どもの虐待、女性への暴力 9 . 精神保健指導 C 社会病理を背景とするおもな疾病 d) 家庭内暴力 8 . 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	「21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた」 落合恵美子(有斐閣)2004 「迷走する家族 戦後家族のモデルの形成と解体」 山田昌弘(有斐閣)2005 「DV防止とこれからの被害当支援」 戒能民江(ミネルヴァ書房)2006 「児童虐待」 川崎二三彦(岩波新書)2006 「系統看護学講座 別巻15 家族論・家族関係論」(医学書院)2004 「雇用流動化のなかの家族」 船橋恵子他(ミネルヴァ書房)2008

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 園 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関 連 科 目	地域社会学、経済学
成 績 評 価 方 法	定期試験(80%)、出席・受講状況(20%)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	環境とは 地球の環境の構造 生活を支える資源 環境問題の変遷 典型七公害 酸性雨 オゾン層破壊 地球温暖化( ) 地球温暖化( ) エネルギー問題 廃棄物問題( ) 食料生産と環境 循環型社会 持続可能社会 まとめ	環境問題の範囲と背景 地球の自然の成り立ち 再生可能資源と再生不能資源 公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷 足尾鉍毒、水俣病、イタイタイ病 燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成 オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策 予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任 日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー 一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物 食料生産の現状、フードマイレージ、食品の安全性 3R、熱回収、適正処分 再生可能資源中心の社会づくり 内容を振り返ってまとめる	社会保障制度と生活者の健康】 目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 3.生活環境の保全 A.地球環境 a)地球温暖化 b)オゾン層の破壊 c)酸性雨 B.水・空気・土壌 a)水の安全性 b)大気汚染 c)ダイオキシン C.食品管理および家庭用品 a)食品安全確保対策 b)食品衛生管理制度 c)家庭用品の安全対策 D.ごみ・廃棄物 a)一般廃棄物と産業廃棄物 b)市町村の責任 c)生活廃水処理 E.住環境 a)バリアフリー b)シックハウス症候群	【地域看護学1】 3.社会環境の変化と健康課題 C.健康に影響する生活環境要因 e)生活環境(公害・環境汚染)

教 科 書	使用せず
参 考 書	「平成21年版環境白書」環境省編(ぎょうせい)

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Word、Excel、PowerPoint 等を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Word、Excel、PowerPoint 等を使用して、レポート、研究発表等の種々の文書作成やプレゼンテーションなどが円滑に実行できるようにする。
関 連 科 目	特になし
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Windows と Word 入門	Windows と Word の基礎的事項を指導する		【疫学・保健統計】11-A-a) コンピュータとソフトウェア b) ネットワークとインターネット c) データの電子化 d) 個人情報の秘密保持  11-B. データベース 11-C. レコードリンケージ
2	文字入力	Word を使った文字入力を指導する		
3	文書入力、文書の作成	文書の入力・作成について指導する		
4	文書の訂正、修正	文書の訂正・修正等について指導する		
5	文書の編集	文書の編集(削除、挿入など)を指導する		
6	PowerPoint の基礎	PowerPoint の基礎的事項を指導する		
7	プレゼンテーションの基本事項、作成	プレゼンテーションの基本事項・留意事項とプレゼンテーションのスライド作成を指導する		
8	Excel の基本	Excel の基礎的事項について指導する		
9	関数の活用	Excel の種々の関数について指導する		
10	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する		
11	グラフ作成	種々のグラフの描き方等について指導する		
12	データベースの基本事項、データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計の方法を指導する		
13	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
14	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	まとめ	まとめ		

教 科 書	「30時間でマスター WindowsVista 対応 Word&Excel2007」実教出版編修部編(実教出版)
参 考 書	

授業科目名	法 学	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。
関 連 科 目	経済学・ジェンダー論・家族学・教育学
成 績 評 価 方 法	論述中心の筆記試験により評価する。自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうかを、評価の基準とする。なお、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8	序論 人権(1) 人権(2) 人権(3) 民主主義 平和(1) 平和(2) まとめ  各回の授業内容と順番は、変更することがある。	憲法・法律の役割 人権とは何か 家族と人権 労働と人権 民主主義と独裁政治 日本の戦争 憲法9条の考え方	基礎看護学 目標 .看護の基本となる概念についての理解を問う。  1.看護の基本となる概念についての理解を問う  D.看護倫理 a.基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	地域看護学 目標 .地域で生活する人々の健康問題の解決や地域の健康課題の組織的な解決に関する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う。  1.地域看護学の成立基礎 C.基本概念とその活用 i.基本的人権の尊重、権利擁護(アドボカシー)

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ - 憲法のわかる50話 - 』岩波ジュニア新書

授業科目名	ジェンダー論	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	1.高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解釈し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2.若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える
学習到達目標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2.1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる 3.2.のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4.3.のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる
関連科目	【関連する教養科目】家族学、法学
成績評価方法	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ジェンダー、戦後日本社会の性別関連問題の二重の循環構造	ジェンダーとは 製造装置の回路(2つの性別分業)、一次生産物(社会資源の男性偏在)、二次生産物(女性問題)		
2	製造装置を読み解く(1)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働 第1の性別分業:社会的労働と私的労働(続)		
3	製造装置を読み解く(2)	第2の性別分業:社会的労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)、2つの性別分業の関係		
4	製造装置を読み解く(3)	一次生産物:経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物:		
5	生産物次元の問題(1)	女性問題 女性に対する暴力、とくにDVを具体例として(1)		
6	生産物次元の問題(2)	二次生産物:女性問題 女性に対する暴力を例にDV(1)		
7	生産物次元の問題(3)	二次生産物:女性問題 女性に対する暴力を例にDV(2)		
8	生産物次元の問題(4)	ハラスメント		
9	関連問題 児童虐待(1)	児童虐待を理解する		
10	関連問題 児童虐待(2)	児童虐待の防止・対応		
11	性別について公正な社会へ(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿(1)		
12	性別について公正な社会へ(2)	性別について公正な社会の姿(2)、社会的労働と私的労働のゆくえ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	ワークライフバランス(1)	ワークライフバランスの考え方、ワークライフバランスの取り組み		
14	ワークライフバランス(2)	子育てとジェンダー		
15	まとめ	まとめ		

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	「男女共同参画白書 平成22年度版」内閣府

授業科目名	地域社会学	単位認定者	坂本祐子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。
学習到達目標	1 地域社会に関する基本的な知識(地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など)を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関連科目	関連し合う教養科目 - 老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 - 精神地域看護学 地域看護学概論 地域看護学 ・ ・ 災害看護
成績評価方法	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。 1.生活基盤 C.生活の場と健康 a)都市 b)農村・漁村 c)へき地 D.労働と健康 a)仕事内容 b)労働時間 c)仕事と余暇 3.人間の集団としてはたらき B.地域における人間関係 a)親族、近隣、交際のネットワーク b)地域のソーシャルサポートネットワーク C.職場における人間関係 a)上司との関係 b)組織のなかでの役割 c)同僚との関係	地域看護学 目標 地域で生活する人々の健康問題の解決や地域の健康課題の組織的な解決に関する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う。
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。		2.地域看護学の構成 B.活動対象 a.個人・家族 b.小集団 c.組織・機関 d.コミュニティ、地域社会
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		C.活動方法 a.地域診断 b.計画策定・評価 c.地区活動(地域を対象とした接近技法・技術) d.個人・家族・小集団の接近技法・技術 e.コーディネーション f.地域ケアシステム構築 g.地域資源開発
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		地域看護学 目標 地域に顕在あるいは潜在化している健康問題の把握方法。地域診断に基づく活動計画と評価、さらに住民ニーズの施策化など、組織的に解決する基礎的な理解を問う。
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		1.地域診断 A.地域特性、地域集団の特徴の把握 a.地域診断の概念、情報収集、アセスメント b.日常的な保健師活動からの潜在・顕在ニーズの把握と分析
6	地域と家族(1)	労働環境の変化と家族		
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容		
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化		
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み		
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法		
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価		
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍		c. 住民ニーズの把握と住民の意見聴取 d. 既存の統計資料の分析
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク		f. 実態調査 4. 地域看護管理 C. 地域ケアの質の保証
15	まとめ	講義内容の振り返り		a. サービス挨拶、組織の診断 b. 地域にける看護の継続性と統合性の推進 c. 他職種・他機関との事例検討 d. 地域の特性をいかした社会資源の開発と管理

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「地域の社会学」森岡清志編（有斐閣アルマ）

授業科目名	ボランティア活動論	単位認定者	竹澤泰子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義 実践
科目の目的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。
学習到達目標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。
関連科目	
成績評価方法	定期試験。テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である	社会保障制度と生活者の健康 目標 . 社会保障の概念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。	
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国)現在行っているNPO法人の活動について		
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論		
4	ボランティア活動の経験談	前橋国際交流協会理事 矢嶋照雄氏 ボランティア活動 竹澤同席	7. 社会福祉行政 B. 社会福祉の民間活動 C. ボランティア活動論	
5	ボランティア活動経験談	NPO カンボジアフレンド会員 天川弘氏のカンボジアに学校設立経験談 竹澤同席		
6	ボランティア活動経験談	交渉中		
7	ボランティア活動のプレゼンテーション調査開始	発表に関する資料作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認		
8	同上	自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。 学生同志発表を採点する。質疑応答 同上		
9	同上	各グループで調査しまとめたことを発表する		
10	ボランティアの調査並びにプレゼンテーション	同上		
11	同上	同上		
12	同上	同上		
13	ボランティアについて	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換		
14	レポートの書き方	発表した結果をレポートにまとめ方指導		
15	まとめ	レポート提出		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師

教科書	
参考書	「ボランティアという人間関係」原田隆司（世界思想社） シリーズ福祉のこころ1，社福祉の心、2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり、4 きみの心のサポーター 5 命のあかりを求めて 旬報者

授業科目名	経済学	単位認定者	飯島正義
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義形式。
科目の目的	経済学は私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにし、その知識を私たちの経済生活に活かしていくことを目的とした学問です。したがって、経済学が明らかにしようとしているのは私たちの経済生活そのものであり、極めて実践的な学問です。
学習到達目標	1. まず経済学の基礎理論を理解できるようにすること。 2. その上で現実の経済現象について理解できるようにすること。
関連科目	
成績評価方法	平常点(出欠席や学習態度)、授業中に行う確認、学期末試験で総合的に評価します。(絶対評価)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	イントロダクション	・授業内容とその進め方、成績評価についての説明 ・経済学は何を明らかにする学問か		
2	経済学の考え方(1)	・古典派とケインズ学派		
3	経済学の考え方(2)	・古典派とケインズ学派		
4	国民経済のしくみ	・経済の3主体と国民経済のしくみ		
5	市場メカニズム	・市場メカニズムとは何か		
6	市場の失敗	・市場の失敗、外部経済		
7	政府の役割	・政府の役割とは、財政・金融政策		
8	物価	・物価とは、物価の変動、インフレ・デフレ		
9	国内総生産	・国内総生産(GDP)、名目GDPと実質GDP		
10	経済成長	・経済成長とは、日本の経済成長		
11	景気変動	・景気変動に関する学説、景気動向指数を読む		
12	貿易と国際収支	・比較優位説、国際収支表を読む		
13	為替レート	・為替レートとは何か、私たちへの影響は?		
14	経済統計を読む	「国民経済計算」を読んでみよう		
15	まとめ	まとめ		

教科書	使用しません。当日プリント資料を配布します。
参考書	随時紹介します。

授業科目名	大学の学び入門	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 自立した人間になっていくために必要な知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけそれを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ
学習到達目標	1. 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違いを理解する 2. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を高める 3. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める(スチューデント・スキル)
関連科目	看護学入門、看護学概論
成績評価方法	出席状況、課題への取り組み状況、提出状況による単位認定

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	科目の説明、大学生の学習・生活	科目の目的・目標・進め方の説明、学習記録と生活記録 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い		
2	アカデミック・スキルとスチューデント・スキル	アカデミック・スキルー“自ら課題を見つけそれを解決していく力”の構成要素、スチューデント・スキルー時間管理を中心とする生活管理、人と関わる力		
3	課題を立てる	前回授業を踏まえた自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を整理し、課題シートに記入する		
4	アカデミック・スキルを磨く(1)聞く	授業を受ける、ノートを取る、復習とは何をすることか		
5	アカデミック・スキルを磨く(2)読む	本や資料を読む		
6	アカデミック・スキルを磨く(3)読む	本や資料を読む		
7	アカデミック・スキルを磨く(3)調べる	情報を探す		
8	アカデミック・スキルを磨く(4)考える	課題を見出す、解決の筋道を組み立てる、論理を組み立てる		
9	アカデミック・スキルを磨く(5)書く	レポートの書き方：その1		
10	アカデミック・スキルを磨く(6)書く	レポートの書き方：その2		
11	アカデミック・スキルを磨く(7)書く	例題レポートの作成：その1		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	アカデミック・スキルを磨く(8)書く	例題レポートの作成: その2		
13	アカデミック・スキルを磨く(9): 書く 授業評価について	例題レポートの完成 学生による授業評価のガイダンス		
14	スチューデント・スキルを磨く: 情報技術のルールとマナー	インターネット利用のルールとマナー		
15	まとめ	まとめ-課題はいかに追求されたか		

教科書	使用しない(プリント、ワークシート)
参考書	「大学生生活ナビ」玉川大学コア・FYE教育センター(玉川大学出版部)2006 「スタディ・スキル入門」天野明弘・太田勲他(有斐閣)2008 「大学生諸君! - 今求められる問題解決力 - 」早川修(流通経済大学出版会)2008 「理科系の作文技術」木下 是雄(中公新書)1981

授業科目名	看護学のための生物学	単位認定者	佐藤久美子
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	高等学校までの生物学の学習と、看護学の専門教育をつなぐために、生命現象と生体機能の基礎的理解を深めることを目的とする。
学習到達目標	以下 3 事項について正確に理解する 1. 生体構成成分 2. 細胞の構造、機能と細胞の分化 3. 遺伝の分子メカニズム
関連科目	生理学、生化学
成績評価方法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生命を支える物質 - その 1 -	生命現象の特質、生物学の研究対象や方法、について学ぶ。 水と生命との関わり、タンパク質の構成単位であるアミノ酸の構造や種類、タンパク質の構造と機能について学ぶ。		
2	生命を支える物質 - その 2 -	遺伝物質である核酸の構成単位、構造などについて学ぶ。また、脂質、糖などの構造と機能、無機質の役割について学ぶ。		
3	生命の単位 - その 1 - ウイルス、原核細胞と真核細胞 真核細胞 - 細胞膜と細胞質基質	ウイルス、原核細胞と真核細胞の大きさや形、特徴などについて学ぶ。 次に真核細胞について、細胞膜の構造と機能、細胞膜を介した物質の輸送、及び細胞質基質内で行われている種々の物質の合成、分解反応などについて学ぶ。		
4	生命の単位 - その 2 - 真核細胞 - 核、小胞体、ゴルジ装置、リソゾーム	核や核膜の構造とはたらきについて学ぶ。また、細胞の種類に応じた核の形態変化や機能の変化を概説する。 粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴などについて学ぶ。次にゴルジ装置の構造と機能、小胞体とゴルジ体の関係、リソゾームの形成過程と種類、リソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割について解説する。		
5	生命の単位 - その 3 - 真核細胞 - ペルオキシソーム、ミトコンドリア、色素体、細胞骨格	ペルオキシソーム、ミトコンドリア、色素体の構造と機能について学ぶ。 細胞骨格の種類とその役割について学ぶ。		
6	生命活動とエネルギー - 酵素、光合成、呼吸	生体内化学反応を触媒する酵素やエネルギー - 運搬を担う ATP について学ぶ。 光エネルギー - を利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す光合成について学ぶ。また、生体のエネルギー製造工場といわれるミトコンドリア内で起こっている反応(解糖系から TCA 回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)や、その結果生ずるエネルギーの行方について学ぶ。		
7	細胞の増殖・生殖細胞の形成	細胞周期、増殖周期と成長周期について概説する。体細胞で見られる細胞分裂(体細胞分裂)と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂の違い及び、細胞周期 S 期、G2 期、M 期、G1 期の特徴について学ぶ。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	細胞の分化と幹細胞 細胞の死 アポトーシス	細胞の分化について発生段階との関連で学ぶ。また各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞などについて概説し、その医療分野における応用の可能性について述べる。 また、細胞の増殖とアポトーシスとのバランスによって多細胞体の体制はコントロールされている。その機構を学ぶ。		
9	ヒト配偶子の形成、受精、発生概説	ヒトの精子や卵子の形成、その過程におけるキアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義について学ぶ。また、ヒトの受精及び初期発生と胚葉の分化について概略を学ぶ。		
10	- 生命の自己増殖 - 染色体の構造、遺伝子の本体 DNA とその複製	DNA から染色体への構造の変化について学ぶ。 また、DNA 複製機構 (DNA の開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースと DNA ポリメラーゼ、DNA リガーゼの役割など) について学ぶ。		
11	遺伝情報の発現 - その 1 -	遺伝情報発現の機構について学ぶ。原核細胞と真核細胞における情報発現機構の相違について学び、また、真核細胞の遺伝情報発現の過程を詳しく学ぶ。		
12	遺伝情報の発現 - その 2 -	原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール機構の違い、特定の時期 (環境) に特定の遺伝子が発現する機構 (あるいは発現しない機構) について学ぶ。 性染色体の不活化についても概説する。		
13	ヒトの遺伝	ヒトの遺伝について、一般知識、常染色体性遺伝病と伴性遺伝病、ミトコンドリア病、多因子遺伝病、染色体とその異常、および先天異常とその発症要因について学ぶ。		
14	種々の要因による DNA の変化と人体への影響、	放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等による DNA の損傷機構や損傷によって引き起こされる具体的影響、及び生体の備わっている DNA 修復機構について学ぶ。		
15	まとめ			

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 数研出版 総合図説生物 田中隆荘・田村道夫・田中昭男監修 第一学習社 高校で生物を受講した人へ はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 羊土社

授業科目名	看護学のための数学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、看護師として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。
学習到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	
成績評価方法	筆記試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。		
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。		
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。		
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。		
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。		
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。		
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。		
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。		

教科書	
参考書	

授業科目名	看護学のための化学	単位認定者	西 園 大 実
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	化学は基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、看護学に必要な化学の基本を学べるように進める。
学 習 到 達 目 標	看護学に必要な生理学や医薬品の特質を深く理解できるようになる。また、専門職としての技能向上だけでなく、健康な生活をおくることの手助けとして、化学的理解が役立てられる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験 ( 8 0 % ) 出席・受講状況 ( 2 0 % )

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	物質の成り立ち	物質は何からできているか		
2	物質の変化	化学反応、燃焼とはなにか、エネルギーの出入り		
3	物質の状態	固体・液体・気体、溶液、コロイド、イオン		
4	有機化合物	炭素の性質、炭化水素、アルコール、有機酸		
5	高分子化合物	炭水化物、脂質		
6	高分子化合物	タンパク質、核酸		
7	生命と化学	生体高分子、酵素		
8	まとめ	内容を振り返ってまとめる		

教 科 書	「食を中心とした化学」【第3版】東京教学社
参 考 書	

授業科目名	看護学のための基礎英語	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 7 . 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	テキストに沿って進める。講義。
科目の目的	英語基礎力の強化
学習到達目標	基礎英文法の理解。正確な発音、イントネーションで単語、文章を読む。英和辞典の活用。
関連科目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語表現 ステップアップ英語
成績評価方法	出席状況、前期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Unit 1~4	be 動詞 一般動詞 進行形		
2	Unit 5~8	未来形 助動詞 名詞・冠詞 代名詞		
3	Unit 9~12	前置詞 形容詞・副詞 比較 命令文・感嘆文		
4	Unit 13, 17, 14, 15	接続詞Ⅰ,Ⅱ 不定詞Ⅰ・動名詞Ⅰ 受動態		
5	Unit 16, 18, 19、20	現在完了形 5 文型、各種疑問文 不定詞Ⅱ		
6	Unit 21,22	it の特別用法 分詞・動名詞Ⅱ		
7	Unit 23	関係代名詞		
8	まとめ			

教科書	First Primere (『基礎からの英語入門』) 佐藤哲三、植松伸二他著 南雲堂、2010 年
参考書	英和辞書

授業科目名	解剖学	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人体の基本的な構造を理解させる。
学習到達目標	看護を学ぶ上で必要な人体の構造を説明できる。
関連科目	生理学、解剖学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	細胞	細胞一般、細胞膜、細胞質、細胞核、細胞周期	人体の構造と機能	
2	組織	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織	1.生命と恒常性	
3	身体の概要	身体の切断面の名称、器官系の概要	A細胞・組織・器官	
4	骨格系	骨、骨の連結、骨格の構成	C組織	
5	骨格系	骨格の構成	7.運動系	
6	筋系	筋の構造と機能、主な筋	A骨格 a 骨の構造と機能 b	
7	筋系	主な筋	体の支柱 c四肢の骨 d頭蓋	
8	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ	骨と胸郭 C骨格筋 a骨格筋	
9	循環器系	血管一般、心臓	の構造 d四肢の筋 e頸部の	
10	循環器系	動脈系	筋 f表情筋 g呼吸筋 h骨盤	
11	循環器系	静脈系、胎生期の血液循環	底筋	
12	循環器系	血液・造血器・リンパ系	4.循環系 A心臓 a心筋 b	
13	消化器系	消化管総論、口腔	刺激伝導系 c心臓の構造 B	
14	消化器系	咽頭、食道、胃、小腸、大腸	血管系 a動脈系と静脈系 b	
15	消化器系	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜	肺循環と体循環 c冠循環 d	
16	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ	脳循環 g胎児の血液循環 C	
17	呼吸器系	鼻、咽頭、喉頭	リンパ系 aリンパ bリンパ	
18	呼吸器系	気管、気管支、肺	管	
19	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道	10.消化器系 A咀嚼 a歯・	
20	生殖器系	男性生殖器	口腔の構造と機能 B嚥下 a	
21	生殖器系	女性生殖器	咽頭の構造と機能 b食道	
22	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島	の構造と機能 C消化と吸	
23	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ	収 a胃の構造と機能 b十二	
24	神経系	中枢神経系	指腸の構造と機能 c空腸	
25	神経系	末梢神経系	と回腸の構造と機能 d結	
26	神経系	自律神経系、伝導路	腸の構造と機能 e直腸・肛	
27	外皮	皮膚、角質器、皮膚腺	門の構造と機能 f肝臓・胆	
28	感覚器	視覚器	道の構造と機能	
29	感覚器	平行聴覚器、嗅覚器、味覚器	5.呼吸器系 A呼吸器 a鼻	
30	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ	腔の構造と機能 b咽頭・喉	
			頭の構造と機能 c気管・気	
			管支の構造と機能 d肺の	
			構造と機能	
			12.泌尿器系 A尿の生成 a	
			腎臓の構造 C排尿 a尿管の	
			構造と機能 b膀胱の構造	
			と機能 c尿道の構造と機	
			能	
			13.生殖と老化 A女性の生	
			殖系 a卵巣の構造と機能 b	
			卵管・子宮・膣の構造と機	
			能 B男性の生殖系 a精巣・	
			精巣上体の構造と機能 b	
			精子の形成 c付属生殖腺	
			の構造と機能	
			9.内分泌系 c内分泌器官	
			の構造とホルモンの機能 a	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			視床下部 b 下垂体 c 甲状腺 d 副甲状腺 ( 上皮小体 ) e 膵島 f 副腎皮質 g 副腎髄質 h 消化管ホルモン i 腎臓の ホルモン j 性腺ホルモン 6 .神経系 A 神経細胞と神 経組織 a 神経細胞と情報 伝達 b 神経組織 c 神経膠細 胞 B 中枢神経系 a 大脳の内 構造と機能 b 視床と視床下 部の構造と機能 c 脳幹の 構造と機能 d 小脳の構造 と機能 e 脊髄の構造と機 能 C 末梢神経 a 脳神経 b 脊 髄神経と神経叢 c 体性神 経系 d 自律神経系 8 .感覚器系 A 視覚 a 眼球 の構造 B 聴覚 a 耳の構造 b 平衡器官の構造 D 味覚 a 味 覚受容器の構造と味覚 E 嗅覚 a 嗅覚受容器の構造 と嗅覚 F 体性感覚 a 皮膚の 構造と機能 c 皮膚の感覚 受容器 d 皮膚感覚の種類 e 深部感覚の受容器	

教科書	「図解ワンポイントシリーズ1 解剖学 人体の構造と機能」渡辺皓 (医学芸術社)
参考書	「解剖学講義」伊藤隆、高野廣子 (南山堂)

授業科目名	解剖学	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	解剖学を補足する。
学習到達目標	解剖学で学んだ知識を問題演習で確かなものとする。
関連科目	解剖学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準		
			看護師	保健師	
1	問題演習	骨格系	人体の構造と機能 7. 運動系 A 骨格 a 骨の構造と機能 b 体の支柱 c 四肢の骨 d 頭蓋骨と胸郭 10. 消化器系 A 咀嚼 a 歯・口腔の構造と機能 B 嚥下 a 咽頭の構造と機能 b 食道の構造と機能 C 消化と吸収 a 胃の構造と機能 b 十二指腸の構造と機能 c 空腸と回腸の構造と機能 d 結腸の構造と機能 e 直腸・肛門の構造と機能 f 肝臓・胆道の構造と機能 5. 呼吸器系 A 呼吸器 a 鼻腔の構造と機能 b 咽頭・喉頭の構造と機能 c 気管・気管支の構造と機能 d 肺の構造と機能 12. 泌尿器系 A 尿の生成 a 腎臓の構造 C 排尿 a 尿管の構造と機能 b 膀胱の構造と機能 c 尿道の構造と機能 13. 生殖と老化 A 女性の生殖系 a 卵巣の構造と機能 b 卵管・子宮・膣の構造と機能 B 男性の生殖系 a 精巣・精巣上体の構造と機能 b 精子の形成 c 付属生殖腺の構造と機能 4. 循環系 A 心臓 a 心筋 b 刺激伝導系 c 心臓の構造 B 血管系 a 動脈系と静脈系 b 肺循環と体循環 c 冠循環 d 脳循環 g 胎児の血液循環 C リンパ系 a リンパ b リンパ管		
2	問題演習	骨格系			
3	問題演習	骨格系			
4	問題演習	消化器系			
5	問題演習	消化器系			
6	問題演習	消化器系			
7	問題演習	呼吸器系			
8	問題演習	呼吸器系			
9	問題演習	泌尿器系			
10	問題演習	泌尿器系			
11	問題演習	生殖器系			
12	問題演習	生殖器系			
13	問題演習	循環器系			
14	問題演習	循環器系			
15	まとめ	ここまでのまとめ			

教科書	プリント配布
参考書	「解剖トレーニングノート」竹内修二(医学教育出版)

授業科目名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部の機能を確認する。また、その低下や不安定状態を考えることで看護に必要な基礎能力を身につける。
学 習 到 達 目 標	まず、人体各部の基本的機能、それを支える仕組みや基本構造を理解する。 そして機能の低下、機能の変動要因や負担となることなどを生理学的観点から考え、疾患を把握する基礎能力を身につける。
関 連 科 目	解剖学、生化学、病理学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、レポート、出席、聴講態度などにより総合的に評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準			
			看 護 師	保 健 師		
1	ガイダンス	生理学について、医療看護の資質など 生命とは 細胞・組織・器官	a . 細胞の構造 b . 細胞内小器官の構造			
2	体液	体液の恒常性	a . 体液の電解質			
3			b . 酸塩基平衡			
4			c . 脱水			
5						
6			循環、血液	心臓血管系の基本構造と機能、調節 血液の成分と機能	a . 心臓の構造 b . 心臓の機能 c . 血管の構造 d . 動脈系と静脈系 e . 脈拍 f . 血圧 g . リンパの流れ h . 胎児の血液循環 i . 血液の成分とはたらき j . 造血 k . 凝固と線溶	
7	呼吸	呼吸器系基本構造と機能、調節	a . 鼻腔の構造と機能			
11			b . 咽頭・咽頭の構造 c . 器官・肺の構造 d . 呼吸運動 e . 肺機能の測定			
12			f . 声帯と発声 g . 外呼吸と内呼吸 h . ガス分圧			
13			i . 酸素の運搬 j . 二酸化炭素の運搬 k . 呼吸中枢 l . 呼吸に影響を与える因子			
14			消化と吸収(消化管)	消化器系基本構造と機能、調節	a . 咀嚼の過程 c . 口腔	
15					d . 咽頭の構造と機能 e . 食道の構造と機能 f . 胃の構造と機能 g . 十二指腸, 空腸・回腸の構造と機能 h . 結腸, 直腸・肛門の構造と機能	
16						
17	消化と吸収(肝、膵、胆)	消化器系基本構造と機能、調節	a . 膵臓の構造と機能			
18			b . 肝臓と胆嚢の構造と機能			
19						
20						
21						
22	泌尿器と生殖器	腎臓の構造と機能、調節 尿生成、蓄尿と排尿	a . 腎臓の構造 b . 濾過			
23			c . 再吸収, 分泌 d . 尿量の調節 e . 膀胱と尿路			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
24				
25	内分泌	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	a. ホルモンとは b. ホルモンの作用機序 c. 様々なホルモン	
26				
27				
28	神経、感覚	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系 主要な感覚器と伝導路	a. 神経細胞の生理 b. 神経細胞と情報伝達 c. 中枢神経系を保護する組織 d. 伝導路 e. 末梢神経 f. 感覚器	
29				
30	まとめ	まとめ		

教科書	「症例問題から学ぶ生理学（原書第3版）」鯉淵典之訳（丸善）
参考書	「トータル人体の構造と機能」大野忠雄ほか訳（丸善） 「標準生理学（第7版）」小澤静司ほか（医学書院） 「カラー人体解剖学」フレディック・H・マティーニ著（西村書店）

授業科目名	生 化 学	単 位 認 定 者	牛 島 義 雄
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	プリント、パワーポイントを使用
科 目 の 目 的	看護が対象とする人間の体に関し、「根拠に基づく看護学」を目指し、科学的視点から基本的で、かつ、臨床に役立つ基礎的知識を習得する。
学 習 到 達 目 標	生体を構成する化学物質にはどのようなものがあるかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応(特に、運動と筋肉・骨、エネルギー代謝)が理解でき、また、それらが疾病の際にどのように変化するかを説明できる。
関 連 科 目	看護学のための化学、看護学のための生物学、生理学、栄養学(含食品学)、薬理学
成 績 評 価 方 法	学期末試験などによる評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生体分子、細胞とエネルギー生成	生体を構成する元素・分子にはどのようなものがあるか。細胞内小器官の生化学的役割分担はどうか。エネルギー(ATP)の生成と利用等を概説する。	人体の構造と機能 目標 .日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 目標 .疫病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。	
2	タンパク質の構造、機能と代謝	タンパク質を構成するアミノ酸の種類にはどのようなものがあるか。タンパク質の構造と機能を維持する化学結合は。構成アミノ酸が変わると機能はどうか。変異と病気との関連について例を挙げて述べる。	11.代謝 A.エネルギー代謝 a.同化作用と異化作用 b.酵素 c.栄養所要量 d.基礎代謝 e.炭水化物の代謝 f.脂肪の代謝 g.蛋白質の代謝 h.核酸の代謝 i.ビタミン・ミネラルの代謝	
3				
4	酵素の性質と働き	酵素はどのようにして機能するのか。その特性、種類、作用機序、血清酵素の診断への利用等を説明する。		
5	ビタミンと疾患	脚気、懐血病や鳥目等が生じる生化学的機序は？		
6	糖質の性質と代謝	どんな物質を糖と呼ぶのか。糖はどんな働きをするのか。食事摂取不可となると何が代わりに代謝されるのか。また、糖尿病の病態、診断等について話す。		
7				
8	脂質の存在場所、働き、代謝	脂質にはどのようなものがあるのか。それらはどこに存在し、どのような働き、どう代謝されるかを説明。		
9				
10	エネルギー生成機序	生体ではエネルギーはどこで、どのようにして作られるのかについて解説する。		
11	ホルモンと疾患	ホルモンにはどんな物質があり、どこで作られ、どこで、どのように働くのか概説する。また、疾患として甲状腺ホルモン異常について述べる。		
12	生体内における核酸の役割	子は親に何故似るのか。大きなDNAどのようにして核に存在するのか。がんの正体は？遺伝病は？それらの生化学的機序について話す。		
13	免疫と免疫異常	生体は細菌、ウイルスの侵襲にどう対応するか。抗体や白血球の防御機構はどんなものか説明する。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	活性酸素と疾患	活性酸素にはどんなものがあるのか。どこで作られ、どのようなものと反応するか。それらに対する生体の防御機構はどうか等について解説する。		
15		まとめ		

教科書	生物有機化学 生化学編(第2版) マクマ - リ著(丸善)
参考書	レーニンジャーの新生化学「上」「下」第4版 山梨郁男 監修(廣川) ハーバー・生化学(原著27版) R K M u r r a y 著(丸善)

授業科目名	発達心理学	単位認定者	榎本光邦
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習(講義内にて)・事例検討
科目の目的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。
学習到達目標	各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。
関連科目	心理学 小児看護学概論 精神看護学概論
成績評価方法	定期試験に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解	<b>【必修問題】</b> 目標 .看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的な知識を問う。 7.人間の成長と発達 A.胎児期 a.形態的発達 B.新生児期・乳児期 a.発達の原則 b.身体の発育 c.運動能力の発達 d.栄養 e.親子関係 C.幼児期 a.身体の発達 b.運動機能の発達 c.排泄の自立 d.言語発達 e.社会性の発達 D.学童期 a.運動能力・体力の特徴 b.社会性の発達 E.思春期 a.二次性徴 b.アイデンティティの確立 F.成人期 a.社会的責任と役割 b.生殖機能の成熟と衰退 G.老年期 a.運動能力・体力変化 b.知覚・感覚の変化 c.認知能力の変化 d.心理社会的変化 <b>【精神看護学】</b> 目標 .目標 .目標 1.精神の健康 E.発達段階と精神の健康 a.乳幼児期 b.児童・思春期 c.青年期 d.成人期 e.老年期 <b>【小児看護学】</b> 目標 . 2.子どもの成長と発達 a) C.心理社会的発達	
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について		
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について		
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子どもの発達の特徴と危機の種類とその管理について		
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題、社会的発達について		
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について		
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴、性に関する問題		
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴、特に自己概念形成(自分探し)に焦点を当てて考察する		
9	青年期の精神障害(1)	対人恐怖・社会恐怖等		
10	青年期の精神障害(2)	摂食障害・スチューデントアパシー等		
11	若い大人の発達課題と危機管理	発達課題の考え方と性差における社会的役割など		
12	壮年期の発達課題と危機管理	壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり、仕事との関わりの変化について		
13	高齢期の発達課題と危機管理	心身の変化、死のとりえ方等		
14	生涯発達	発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する		
15	まとめ	まとめ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師

教科書	「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」 岡堂哲雄編 (金子書房)
参考書	講義中に随時紹介する

授業科目名	疾病の成り立ち	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する学問である。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学習到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関連科目	解剖学 解剖学 生理学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。	【必修問題】	
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。	2. 病態と看護 A. 症状と看護 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 C. 外傷 E. 小児疾患	
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。	【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標 1 1. 疾病の成り立ち A. 生体の反応と疾病の機序 B. 生体の回復力 C. 個体差と個人の反応	
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。	目標 2 1. 異常状態の特徴 A. 細胞や組織に生じる変化 B. 異常状態に影響する個体の条件 2. 疾病に対する医療と看護 A. 異常状態に対する診断と看護 B. 異常状態に対する治療と看護 c) 手術適応と外科的治療 d) 放射線による治療 f) 輸血 D. 健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 E. 人体防御機構への看護の視点 F. 医療薬品等による健康被害	
5	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。	目標 3 1. 中枢神経機能の障害 A. 脳機能の障害 B. 感覚機能の障害 2. 生命維持機能の障害 A. 生命の危機	
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。		
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。		
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。		
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。		
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。		
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。		
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	病理検査	病理検査の意義・細胞診・生検組織診・手術時の迅速診断・病理解剖・病理組織・細胞診標本の作製課程・	B.呼吸機能の障害 C.循環機能の障害 D.造血にかかわる諸機能の障害	
14	その他	必要に応じて上記を補う・	3. 栄養の摂取・呼吸・代謝・排泄機能の障害	
15	その他	必要に応じて上記を補う・	A. 食の障害 B. 消化管の機能障害 C. 肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害 D. 排泄機能の障害  4. 内部環境調節機能の障害 A. 内分泌機能障害 B. 体液の調節障害 C. 自律神経系の機能障害  5. 運動機能および皮膚の障害 A. 活動や行動を妨げる障害  6. 生命の連続性をつくりだす機能の障害 A. 生殖機能をつかさどる器官の障害	

教科書	
参考書	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進 [ 1 ]」(医学書院)

授業科目名	免疫・感染症学	単位認定者	伊 豫 部 志 津 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	病原微生物と免疫の基礎を理解し、生体防御と感染症の成立、予防、治療について学習する。
学 習 到 達 目 標	個々の細菌、真菌、ウイルス等の病原性を学ぶと同時に、予防の立場からは消毒法、ワクチン、予防接種を、治療の立場からは化学療法を学習する。一方免疫の基礎にのっとって、病原微生物との係わりあいから感染症が惹き起こされるしくみを知る。近年問題となっている、MRSA、VRE、O157、AIDS、BSE、新型インフルエンザ等の感染症や病院内における日和見感染症についての理解を深める。
関 連 科 目	看護学たのの生物学、疾病の成り立ち、薬理学、臨床検査学、疫学・保健統計
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	感染症の機構	感染症の歴史、病原体の性状と感染症発症の機構	<p>【必須問題】 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 1. 生命活動《生理学》 A. 人体の構造と機能 d) 感染防御と免疫反応 3. 主要疾患と看護 B. 感染症 a) インフルエンザ b) 多剤耐性ブドウ球菌感染症 c) 腸管出血性大腸菌 d) ウイルス性肝炎 e) 結核 f) HIV 感染症/AIDS</p> <p>【人体の構造と機能】 目標 2： 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 3. 生体の防御機構《生理学》 B. 特異的生体防御反応(免疫系) a) 免疫系の細胞 b) 抗原 c) 液性免疫 d) 細胞性免疫</p> <p>【疾病の成り立ちと回復の促進】目標 2： 疾病に対する医療と看護 2. 疾病に対する医療と看護《疾病の成り立ち》 D. 健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 a) 微生物の分布と人体 b) 微生物の種類と特徴 c) 病原微生物の感染経路と潜伏期間 d) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性菌 e) 病原微生物に対する予防処置と感染防御</p>	<p>【疫学・保健統計】 目標：疫学および統計学の概念と方法を理解し、これを地域診断に用い、地域保健・地域看護に役立てる基礎的な能力を問う。 6. 感染症の疫学 A. 感染の基礎概念 a) 顕性感染と不顕性感染 b) 混合感染 c) 再感染と二次感染 d) 日和見感染 e) 保菌者と接触者 f) 潜伏期 F. おもな感染症の頻度と分布《疫学・保健統計》 a) 新興・再興感染症(HIV 感染症/AIDS, 結核を含む) b) 性感染症 c) 食中毒</p>
2	感染症の現状	感染症の種類と現状		
3	感染と生体防御(1)	免疫の機構		
4	感染と生体防御(2)	免疫の医療へのかかわり(診断、予防、治療)		
5	感染と生体防御(3)	免疫病		
6	感染症の予防と対策	感染症の予防(消毒、ワクチン)と行政による対策		
7	細菌感染症(1)	細菌の病原性と細菌感染症		
8	細菌感染症(2)	細菌感染症の診断と治療(化学療法)		
9	細菌感染症(3)	病原細菌の種類と疾患		
10	ウイルス感染症(1)	ウイルスの病原性とウイルス感染症		
11	ウイルス感染症(2)	ウイルス感染症の診断と治療(化学療法、免疫療法)		
12	ウイルス感染症(3)	病原ウイルスの種類と疾患		
13	真菌感染症	病原真菌の種類と疾患		
14	原虫感染症	病原原虫の種類と疾患		
15	まとめ	まとめ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			E. 人体防御機構への看護の視点 a) 人体の感染防御機構と免疫反応 b) アレルギー疾患 c) 自己免疫疾患および類縁疾患 d) 臓器移植 F. 医薬品等による健康被害 a) HIV 感染症/AIDS b) ウイルス性肝炎 c) クロイツフェルト・ヤコブ病 【社会保障制度と生活者の健康】目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 2. 健康指標と予防 B. 感染症とその予防《疫学・保健統計》 a) 感染症の成立要因 b) 感染症の流行現象 c) 感染症予防の基本 d) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症新法> e) 院内感染とその予防 h) HIV 感染症/AIDS と性感染症	

教科書	「病原体・感染・免疫」 藤本秀土、目野郁子、小島夫美子 著 (南山堂)
参考書	系統看護学講座専門基礎6 (微生物学)

授業科目名	薬理学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1)薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2)薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3)薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4)薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学習到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関連科目	生理学 生化学 疾病の成り立ち 小児看護学 母性看護学 老年看護学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識、薬物治療に影響を与える因子、投与経路と薬の吸収、分布、代謝、排泄。	【必修問題】	
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬、局所麻酔薬、中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬、麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	4.薬物治療に伴う反応 A.おもな薬物の作用と副作用 a)抗菌薬 b)抗がん薬 c)強心薬抗不整脈薬 d)狭心症治療薬 e)降圧薬・昇圧薬 f)副腎皮質ステロイド薬 g)糖尿病治療薬 h)麻薬 B.医薬品の安全対策 a)混合の可否 b)禁忌 c)保存方法	
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬、抗痙攣薬(抗てんかん薬)、 筋弛緩薬、抗パーキンソン薬。		
4	自律神経薬、 オータコイド	自律神経の基礎知識、コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬(付:胃酸分泌抑制薬)、アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬、オータコイドの種類とその作用、プロスタグランディンの臨床応用。		
5	強心薬、抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬(ジギタリス)の投与方法、ジギタリスの副作用とその対策、抗狭心症薬、抗不整脈薬。		
6	利尿薬、 降圧薬。	利尿薬、利尿薬の臨床的応用、 降圧薬、抗動脈硬化薬。	【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標2	
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬、駆虫薬、 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬、 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	2.疾病に対する医療と看護 B.異常状態に対する治療と看護	
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬、止血薬、抗血栓療法薬、 開発と化学療法、副作用と組み合わせ。	a)おもな治療薬・麻酔薬と薬理作用 b)医薬品等の安全な使用 e)麻酔 g)麻薬	
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬、抗ウイルス剤、免疫について、免疫療法。	C.治療に伴う変化の観察と看護	
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法、消毒薬の濃度と殺菌速度、 呼吸器病薬、抗結核薬。	a)与薬方法と生体の反応 b)薬物による副作用と中毒	
11	皮膚疾患に用いられる薬剤。	皮膚疾患に用いられる薬剤、 造影剤、放射性医薬品。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤・点眼薬・輸液	ショックの原因別分類・ショックの対応と薬剤・点眼薬・輸液の目的・輸液剤。		
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬・ビタミン剤	中毒の状態・急性中毒に対する処置・解毒剤・排泄と吸着・代謝賦活薬・ビタミン剤		
14	小児・妊婦・老年者に対する薬物療法・嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法・妊婦の薬物療法・老年者の薬物療法・嗜好品の薬理・薬物相互作用。		
15	薬剤の安定性：保存および混合の問題点・まとめ。	薬剤の保存・薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）。		

教科書	
参考書	「新版看護学全書 6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療スタッフとして必要な臨床検査の基礎的知識を学習する。
学 習 到 達 目 標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断及び治療を行うための臨床検査の概略を把握する。
関 連 科 目	解剖学(人体構造) 生理学(人体機能)を含む各臨床科目
成 績 評 価 方 法	定期試験(筆記)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	臨床検査とその役割	診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる	<p>【社会保障制度と生活者の健康】</p> <p>目標 4.人々の健康を守るためのサービス提供期間と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。</p> <p>1.医療機関と医療従事者の職務の機能と役割</p> <p>C.看護職と関係法規</p> <p>h)臨床検査技師,衛生検査技師等に関する法律</p> <p>【基礎看護学】</p> <p>目標 2.基本的看護技術についての理解を問う。</p> <p>3.診療に伴う技術</p> <p>A.診察・検査</p> <p>c)検査時の看護((尿・便・喀痰・血液の採取および検査,心電図検査超音波検査,呼吸機能検査)</p>	
2	臨床検査の流れと医療スタッフの役割	臨床検査はどのように行われるか。また、医療チームの役割について解説する。		
3	一般検査	尿、便、体液の検査の説明		
4	血液検査	血沈(赤沈)、血球、出血、凝固		
5	化学検査(1)	血清タンパク、酵素、糖代謝、		
6	化学検査(2)	脂質代謝、胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等		
7	免疫・血清検査(1)	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫		
8	免疫・血清検査(2)	免疫グロブリン、アレルギー、腫瘍マーカー等		
9	内分泌検査(1)	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン		
10	内分泌検査(2)	副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン等		
11	微生物検査及び病理検査	検体の取り扱い方、主な微生物の特徴と病気との関連性及び細胞診、病理組織検査		
12	生理機能検査	循環器機能、呼吸器機能、神経機能と超音波検査		
13	R C P C (1)	症例検討 1		
14	R C P C (2)	症例検討 2		
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」大久保昭行 編(医学書院)
参 考 書	「最新臨床検査のABC」日本医師会編(医学書院)2007 「臨床検査提要 23判」金井正光編(金原出版)2005 「検査データの生理的変動 -原理から実践へ-」中甫訳(医歯薬出版)2004

授業科目名	病態栄養学	単位認定者	後藤香織
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心にして、代表的疾患、病態を例に挙げて(糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など)説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。
学習到達目標	1. 基礎医学(解剖学、生理学)に基づいて栄養学の基礎を復習する。 2. 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。
関連科目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学
成績評価方法	定期試験90% 出席10%

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	臨床栄養学とは	1)食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2)栄養学の基礎の復習 3)臨床調理の基本について簡単に紹介する	疾病の成り立ちと回復の促進 目標 疾病の特性についての理解を問う。 9. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害 A. 栄養バランスの不均衡による疾患 a. メタボリックシンドローム b. 肥満 c. 脂質異常症(高脂血症) d. 高尿酸血症と痛風 e. 必須栄養素とエネルギー不足による疾患	
2	栄養の評価法	1)臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2)栄養学に関する研究について		
3	疾病と栄養(1)	<b>肥満とやせ、摂食障害について</b> 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。	必修 目標 看護技術の基本を問う。 17. 診療に伴う看護技術 A. 栄養補給 a. 経管栄養法 b. 経静脈栄養法	
4	疾病と栄養(2)	<b>糖尿病と栄養学</b> 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。		
5	疾病と栄養(3)	<b>糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方</b> 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する		
6	疾病と栄養(4)	<b>動脈硬化と高脂血症</b> 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。		
7	疾病と栄養(5)	<b>高血圧、循環器疾患</b> 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	疾病と栄養(6)	食事療法について講義する。 <b>骨粗しょう症、ミネラル摂取異常</b> 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。		
9	疾病と栄養(7)	<b>消化器疾患その1</b> 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。		
10	疾病と栄養(8)	<b>消化器疾患その2</b> 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。		
11	疾病と栄養(9)	<b>腎疾患と電解質</b> 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。		
12	疾病と栄養(10)	<b>がんと栄養</b> がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。		
13	疾病と栄養(11)	<b>1) 血液疾患、アレルギーと栄養</b> 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 <b>2) 嚥下障害について</b>		
14	疾病と栄養(12)	<b>1) 小児、高齢者の栄養</b> 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 <b>2) 栄養法の実際</b> 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。		
15	まとめ			

教科書	「エッセンシャル 臨床栄養学」佐藤和人他 著(医歯薬出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(文光堂)
参考書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂)

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す
学 習 到 達 目 標	臨床心理学の基礎理論、特に臨床心理検査法と心理療法について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、看護場面、治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す。
関 連 科 目	すべての科目と関連（1年次後期に履修した心理学の内容を基に講義を行い、コミュニケーション（相談）実技については2年次後期に開講されるカウンセリングで扱う予定である）
成 績 評 価 方 法	期末試験（50%）、第4回と第8回に実施予定の小テスト（それぞれ10%）、小レポート2本（それぞれ15%）を総合して評価する（出席が学則の規定に満たない学生は期末試験の受験資格を喪失するので、きちんと出席すること）。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3	・臨床心理学とは（基礎理論、正常および異常心理）	1. 臨床心理学とは？ - 定義と歴史 - 2. 問題行動の意味 - 正常と異常 - 3. 発達段階と心理的問題 4. 医療領域における臨床心理学的視点 - 転移・逆転移と防衛機制 -	精神看護学 目標、目標、目標 7. 精神障害者のリハビリテーション A. 社会復帰・社会参加の基本 a. リハビリテーションの概念	
4 5	・臨床心理アセスメント（臨床心理検査法）	1. 心理アセスメントとは？ 1-1. 行動観察によるアセスメント 1-2. 面接法によるアセスメント 1-3. 心理検査によるアセスメント 【実習】血液型性格診断 2. 知能検査によるアセスメント 2-1. ビネー式知能検査 2-2. ウェクスラー式知能検査 2-3. その他の知能検査（認知症スクリーニング検査を含む） 【実習】認知症スクリーニング検査		
6 7	・心理療法の理論と実際	3. 心理検査によるアセスメント(1) 【実習】内田クレベリン検査 4. 心理検査によるアセスメント(2) 【実習】YG性格検査		
8 9 10 11 12 13 14	・心理療法の理論と実際	1. 精神分析的な心理療法 2. 分析心理学的な心理療法 【実習】箱庭療法 3. クライアント中心療法 4. 行動療法・認知行動療法 5. 家族療法、短期療法 6. グループ・アプローチ 【実習】回想法 7. チーム医療、リハビリテーションに活かす心理療法・カウンセリングの知識		
15	まとめ	まとめ		

教 科 書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山祐嗣・山口素子・小林知博 編著（北大路書房）2009年 1年次後期の「心理学」で使用したものと同一のもので、既に持っている場合は購入の必要はありません 「内田クレベリン検査（検査用紙および曲線類型判定）」（日本文化科学社） 一般書店では入手不可のため、授業時に代金と引き替えに配布
参 考 書	「医療心理学の新展開」鈴木伸一 編著（北大路書房）2008年 「24の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法」町田いづみ（照林社）2006年

授業科目名	公衆衛生学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
学習到達目標	生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理、環境学、健康管理論、疫学、保健統計、地域社会学、情報学処理、免疫・感染症学
成績評価方法	定期試験 出席状況 研究発表 等

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合	総人口、年齢別人口、 労働人口、将来推計人口、 世帯数 出生の動向、死亡の動 向、死因の概要	疫学の目的・対象・方法、 疫学と地域保健・地域看護、 記述疫学と分析疫学、 人・場所・時間、二大要因 説と三大要因説、危険因子 と多要因原因説、相関関係 と因果関係、疫学的因果推 論、国際疾病分類、診断基 準、疫学的因果推論
2	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準	平均余命、有訴者の状 況、受療率、入院期間	性比、累積罹患割合、累 積死亡割合、致命割合、罹 患者率、死亡率
3	食と公衆衛生 国民の健康と保健統計	食中毒の発生状況、食中毒の種類 健康指標、20世紀100年の変化	公衆衛生の領域、活動の 特徴、プライマリヘルスケア、 ヘルスプロモーション の展開、世界保健機関 (WHO)加盟国の役割、生 態学的環境、物理化学的環 境、社会的環境、身体的・ 精神・心理的影響、健康被害 と母集団、疫学的因果関係 の推定、臨床疫学とエビ デンス	疫学調査における倫理、 生態学的調査、横断的調 査、症例対照調査、既往コ ホート調査、コホート内症 例対照調査、前向きコホ ート調査、無作為割付臨床試 験
4	同上 疫病の疫学と予防	年齢調整死亡率の意義 疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング	国勢調査、人口動態、出 生、死亡・死因、死 産、周産期死亡、乳 児死亡、平均余命、 平均寿命、健康寿命、 有病率・罹患率	妥当性と精度、選択の偏 り、情報の偏り、交絡 無作為化(割付)、制限、 マッチング、層化、標準化 敏感度と特異度、信頼性と 妥当性、陽性反応適中度 スクリーニングを行う 要件
5	同上	感染症の疫学、新感染症予防法 結核対策、HIV対策	感染症の成立要因、感染 症の流行現象、感染症予防 の基本、感染症の予防及び 感染症の患者に対する医療 に関する法律(感染症新 法)、院内感染とその予防、 予防接種法、結核予防法、 HIV感染症/AIDSと性感染 症	顕性感染と不顕性感染、 混合感染、再感染と二次 感染、日和見感染、保菌者と 接触者、潜伏期 人・場所・時間と流行、 長期間での流行の変化 病原体と病原体対策、感 染経路と感染経路対策、感 受性と感受性対策 マスターテーブル 感染症の発生動向調査 新興・再興感染症、性感 染症、食中毒
6	生活習慣病対策 公衆衛生活動例	がんの予防、その他生活習慣病予防 精神保健対策、介護保険制度		感染症の予防及び感染 症の患者に対する医療に 関する法律、結核予防法、 予防接種法、検疫法、食品 衛生法、学校保健法
7	同上 保健・医療行政	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費		頻度と分布、危険因子、 一次予防と二次予防、三次 予防
8	課題研究発表	指定課題による研究発表		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
				<p>母集団と標本、無作為抽出、正規分布、検定・推定に用いる分布、平均値と他の代表値、四分位数とパーセンタイル、データの範囲、分散と標準偏差、相関と回帰、クロス集計と関連の指標、度数分布、ヒストグラムと他のグラフ表示、相関図(散布図)と回帰直線、点推定と区間推定、帰無仮説と統計学的有意性、母割合に関する推定と検定、母平均値に関する推定と検定、母相関係数に関する推定と検定</p> <p>おもな健康指標、人口ピラミッド、年少人口指数、老年人口指数、老年化指数、死亡と生命表、出生と人口再生産、婚姻と離婚</p> <p>国勢調査、人口動態調査、国民生活基礎統計、患者調査、医療施設統計、学校保健統計、感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査</p> <p>コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット、データの電子化、個人情報の秘密保持、データベース、レコードリンケージ</p>

教科書	新体系看護学7 公衆衛生学 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社
参考書	

授業科目名	疫学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。
学 習 到 達 目 標	疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。
関 連 科 目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、地域社会学、免疫・感染症学、環境学、健康管理論
成 績 評 価 方 法	中間試験 定期試験 出席状況

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	疫学概念・歴史	疫学の目的、対象、方法、歴史的考察	総人口、年齢別人口、労働人口、将来推計人口、世帯数	疫学の目的・対象・方法
2	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学	出生の動向、死亡の動向、死因の概要	記述疫学と分析疫学
3	健康指標、頻度と曝露	疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度	平均余命、有訴者の状況、受療率、入院期間	二大要因説と三大要因説
4	疫学研究方法	記述疫学と分析疫学、5WBridge	食事・栄養、睡眠、運動、飲酒、喫煙	疫学的因果推論
5	疫学調査方法	後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論	健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス	相対危険度、寄与危険度
6	疫学調査方法	バイアスと交絡、マッチング、疫学の倫理	国勢調査、人口静態、出生、死亡・死因、死産、周産期死亡、乳児死亡、平均余命、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率	リスク比、レイト比、オッズ比
7	スクリーニング	感受度、特異度、陽性反応適中率	感染症の成立要因、感染症の流行現象、感染症予防の基本、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症新法)、院内感染とその予防、予防接種法、結核予防法、HIV 感染症/AIDS と性感染症	症例対照調査
8	感染症の疫学	感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則		コホート調査
9	同 上	わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症		無作為割付、マッチング
10	同 上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒		感受性、特異度
11	同 上	防疫活動要領、予防接種、1 類感染症		陽性反応適中率
12	同 上	結核の動向と対策、HIV ・STD の動向と対策		病原体と病原体対策
13	非感染症の疫学	悪性新生物、自殺、母子		感染経路と感染経路対策
14	同 上	生活習慣病		感受性と感受性対策
15	同 上	環境保健		マスターテーブル

教 科 書	最新保健学講座7 疫学 / 保健統計 編集 丸井英二 (株)メヂカルフレンド社
参 考 書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

授 業 科 目 名	保 健 統 計	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	疫学研究を支持する大切な方法論である。健康問題の解析のためにいつでも、どこでも通用する標準的な方法論である保健統計学を理解する。
学 習 到 達 目 標	健康問題の標準的な解析方法論である保健統計技法を理解する。
関 連 科 目	疫学、情報処理、公衆衛生学
成 績 評 価 方 法	定期試験 出席状況

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	母集団と標本調査	無作為抽出法	総人口、年齢別人口、労働人口、将来推計人口、世帯数 出生の動向、死亡の動向、死因の概要 平均余命、有訴者の状況、受療率、入院期間 食事・栄養、睡眠、運動、飲酒、喫煙 健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス 国勢調査、人口静態、出生、死亡・死因、死産、周産期死亡、乳児死亡、平均余命、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率 感染症の成立要因、感染症の流行現象、感染症予防の基本、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症新法)、院内感染とその予防、予防接種法、結核予防法、HIV 感染症/AIDS と性感染症	母集団と標本 無作為抽出 正規分布 平均値と他の代表値 四分位数とパーセンタ イル 分散と標準偏差 相関と回帰 度数分布、ヒストグラム、 相関図 帰無仮説と統計学的有意性
2	図表による表示方法	度数分布、ヒストグラム		点推定と区間推定 指定統計(国勢調査等) その他の統計(栄養調査等)
3	代表値と散布度	平均値中央値、最頻値		コンピュータとソフトウエア データの電子化
4	分散と標準偏差	偏差・分散の標準偏差、変動係数		
5	推 定	点推定と区間推定		
6	検 定	帰無仮説と統計学的検定		
7	統計学で用いられる分布	正規分布、七分布、カイ2乗分布		
8	関係の指標	相関と回帰、相関図、相関係数		
9	質的変数間の関連	クロス表とカイ2乗検定		
10	同 上	四分表の検定		
11	保健統計の歴史	保健統計の考案と基礎づくり		
12	健康指標	健康指標の算式、分類		
13	人口静態・動態統計	人口ピラミッド、出生統計、死亡統計		
14	保健統計調査	指定統計、その他の統計調査		
15	情報処理の基礎知識	パーソナルコンピュータの活用 ネットワーク、LAN、インターネット		

教 科 書	最新保健学講座7 疫学 / 保健統計 編集 丸井英二 (株)メヂカルフレンド社
参 考 書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

授業科目名	社会福祉・社会保障制度論	単位認定者	角田 傑
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	保健師業務を志すものにとって、関連する法規・制度の理解は必須である。地方分権等変化する社会情勢の中で人間の生命、健康問題、生活問題を根底で支える役割の理解
学習到達目標	1 福祉行財政の仕組みを理解する。 2 社会情勢の変化に伴う制度等の変遷を理解する。 3 保健師として理解した法律・制度・福祉援助技術を使いこなす。
関連科目	地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 地域看護活動論 生活学 家族学 法学 地域社会学 経済学
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	社会保障・社会福祉の体系  社会保障・社会福祉の発展過程	1 社会保障・社会福祉とは何か 2 社会保障・社会福祉の改革 3 改革される社会保障・社会福祉の仕組み  1 社会保障の前身 2 社会保険の発達 3 社会保障の発展と確立 4 戦後のわが国の社会保障制度の展開	【必修問題】 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 3. 保健医療制度の基本 A. 医療保険制度 a) 保険者 b) 被保険者 c) 給付の内容 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊重 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームドコンセント e) ノーマライゼーション 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 2. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の健康問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。	3. 地域保健医療福祉行政と保健師活動 C. 社会保障・社会福祉の制度 a) 社会福祉の基本的概要 b) 地域福祉計画とコミュニティ c) 地域福祉権利擁護 d) 成年後見制度 F. 介護保険制度 a) 法体系 b) 市町村の役割 c) 居宅サービス事業者 d) 居宅介護支援事業者とケアマネジメント 4. 保健医療福祉の計画と評価 A. 地方公共団体の保健医療福祉計画 b) 老人保健福祉計画 d) 介護保険事業計画 e) 地域福祉計画と地域福祉活動計画 f) 障害者計画
2	社会保障・社会福祉の財政	1 社会保障・社会福祉の財政 2 日本における社会保障・社会福祉の財政 3 社会保障・社会福祉関係費の推移 4 社会保障・社会福祉関係費の負担	1. 社会保障の理念 A. 日本の保健医療福祉活動の基本方向 a) 理念, 憲法第 25 条 b) 人権 c) 倫理 d) ノーマライゼーション e) 情報開示 f) 地方分権 g) 医療費の増大 h) 介護保険・医療保険制度の改革 2. 社会保険制度 A. 社会保険の変遷 a) 歴史, 意義 b) 国民皆保険・皆年金 B. 医療保険制度 a) 健康保険法 b) 国民健康保険法 c) 保険給付の種類 d) 療養の給付内容 C. 介護保険制度 a) 介護保険給付の種類 b) 給付内容 c) 保険者・被保険者 D. 年金制度 a) 年金給付の種類 b) 給付内容 E. その他の社会保険制度 a) 雇用保険 b) 労働者災害補償保険法 3. 社会福祉諸法の理念と施策 A. 社会福祉の理念と変遷 a) 社会福祉法 b) 措置から選択へ c) 受益者負担	
3	所得保障一時年金制度	1 年金制度とその発展過程 2 年金制度の改革 3 年金制度の仕組みと給付		
4	介護保障	1 介護保険制定の経過とねらい 2 介護保険制度の仕組み 3 介護保険サービス事業の種類 4 介護保障の課題		
5	貧困と社会福祉	1 生活保護の制度 2 今日の低所得者層と生活保護 3 生活福祉資金貸付制度		
6	児童と母子の社会福祉	1 児童の権利保障 2 児童福祉の歴史と制度 3 母子及び寡婦の福祉		
7	障害者(児)の社会福祉	1 障害者福祉の理念と実態 2 身体障害者(児)の福祉対策 3 精神障害者の福祉 4 知的障害者の福祉 5 雇用保障と共同作業所の実施		
8				
9				
10	高齢者の社会福祉	1 高齢者福祉の理念と変遷 2 高齢者世帯の生活実態 3 老人福祉施設		
11				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12 13	社会福祉施設の現状と課題	4 在宅福祉対策 1 社会福祉施設とその歴史 2 社会福祉施設の種類と推移 3 社会福祉施設の運営基盤 4 社会福祉施設の最低基準 5 社会福祉施設の社会化 6 社会福祉施設における処遇	B.生活保護法と施策 a)生活保護法の原則 b)実施機関 c)保護の実施 C.障害者(児)への施策 a)障害者基本法 b)身体障害者福祉法 c)知的障害者福祉法 d)精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 D.児童への施策 a)児童憲章 b)児童福祉法 c)児童虐待防止に関する法律 E.老人への施策 a)老人福祉法 b)老人保健法 F.その他の施策 a)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 DV防止法	
14	地域福祉とコミュニティ・ケア	1 地域福祉とコミュニティ・ケアの理解 2 社会福祉協議会 3 民生委員の福祉活動 4 在宅福祉の「供給システム」	4.社会福祉行政 A.保健福祉計画 a)ゴールドプラン 21 b)新エンゼルプラン c)障害者プラン d)保健福祉計画 B.社会福祉の民間活動 a)民生委員,児童委員 b)社会福祉協議会 c)ボランティア活動 d)特定非営利活動促進法 NPO法 C.国,地方公共団体の行政と組織およびマンパワー a)福祉事務所 b)児童相談所 c)社会福祉施設 d)在宅サービス機関 e)介護支援専門員 ケアマネージャー f)社会福祉士および介護福祉士 g)精神保健福祉士 D.老人保健福祉行政の展開 a)入所措置権の市町村への委譲 b)市町村および都道府県の老人福祉計画 c)高齢者の生きがい対策 d)介護予防	
15	まとめ			

教科書	
参考書	

授業科目名	栄養学（含食品学）	単位認定者	後藤香織
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。
学習到達目標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。食品の科学的な特性を学ぶ。
関連科目	解剖学・生化学 生理学 疾病の成り立ち
成績評価方法	定期試験90% 出席10%

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	栄養学の目的 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食と私たち</li> <li>・食育の必要性</li> <li>・栄養素の種類と体内での主たる役割</li> <li>・一日のエネルギーを求める</li> <li>・</li> <li>・糖質の消化</li> <li>・糖質の代謝</li> <li>・タンパク質の構造、消化、代謝</li> <li>・脂質の構造と種類</li> <li>・脂質の消化と代謝</li> <li>・電解質とビタミン</li> <li>・核酸の消化吸収代謝</li> <li>・嗅覚と食品</li> <li>・色と味</li> <li>・咀嚼とテクスチャー</li> </ul> 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算 病気と献立、食品の選び方  デジタルカメラ、シャッター音のしない携帯にての授業に用いるスライドを撮影をしてよい。	人体の構造と機能 10. 栄養摂取の機構 E. 代謝 a) 栄養所要量 b) 基礎代謝 c) 炭水化物の代謝  d) 脂肪の代謝  e) タンパク質の代謝 f) 核酸の代謝  g) ビタミン・ミネラル	
2	栄養素の種類と体内での主たる役割			
3	栄養素の科学 1			
4	2			
5	3			
6	4			
7	5			
8	6			
9	7			
10	おいしさの科学 1			
11	2			
12	3			
13	献立とは			
14	献立と病態栄養学			
15	まとめ			

教科書	新体系看護学 人体の構造と機能 2 栄養生化学（メジカルフレンド社） 食品成分表 2010（実教出版）
参考書	看護栄養学（医歯薬出版）

授業科目名	歯科保健	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	歯科の基本的知識を修得させる。
学習到達目標	歯科の基本的な事項を説明できる。
関連科目	臨床科目群諸科目
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	口腔の解剖生理	歯のはたらき、数、種類	人体の構造と機能 目標、 10. 消火器系 A. 咀嚼 a. 歯・口腔の構造と機能 b. 咀嚼  疾病の成り立ちと回復の 促進 目標、疾病の特徴につい ての理解を問う。 9. 栄養の摂取・吸収・代謝 機能の障害 B. 口腔と食道の疾患 a. 口腔と食道の機能障害 < 咀・嚥下機能の障害 > b. 口腔・食道の疾患	
2	口腔の解剖生理	口腔諸組織の解剖生理		
3	歯式	各種の歯式		
4	歯の構造	歯の組織構造		
5	う蝕	う蝕の病因、病理、疫学		
6	う蝕	う蝕の診査、診断		
7	う蝕	う蝕の治療		
8	歯周組織	歯周組織の組織構造		
9	歯周疾患	歯周病の原因、病態、疫学		
10	歯周疾患	歯周病の診査、診断		
11	歯周疾患	歯周病の治療		
12	欠損補綴	欠損補綴の分類、ブリッジ		
13	欠損補綴	有床義歯		
14	欠損補綴	インプラント		
15	その他	矯正治療、顎関節症		

教科書	「系統看護学講座専門19成人看護学15歯・口腔」青木春恵他(医学書院)
参考書	

授業科目名	リハビリテーション概論	単位認定者	松澤正
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学習到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	
成績評価方法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史		
2		障害論		
3		障害者の心理		
4		リハビリテーションの構成		
5		医学的リハビリテーション		
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方		
7		地域リハビリテーション		
8		まとめ		

教科書	プリント教材を使用する。
参考書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一(医歯薬出版) 「現代リハビリテーション医学」千野直一(金原出版)

授 業 科 目 名	健 康 管 理 論	単 位 認 定 者	根 岸 真 由 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりを見せており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動の理解。看護国家試験に役立つ、疾病の基礎理解を深める事の出来る様指導する。
関 連 科 目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生学、疾病の成り立ち、健康スポーツ理論
成 績 評 価 方 法	試験と課題レポートの総合評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康とは	健康、栄養、食事について	主に成人看護学、老年看護学、精神看護学理解に役立つ、基礎的知識を講義し、広範囲の看護学の理解に役立つ授業内容に努める。	特に企業内の保健師活動の現状を講義し、国家試験の対応にも役立つ内容の講義を行う。
2	健康保険制度	医療制度と健康保険		
3	喫煙、肥満	日常生活に求められる健康とは		
4	スポーツと健康	外傷とリハビリテーション		
5	大学生と性	エイズ、予防、性感染症		
6	身体健康(1)	突然死、循環器、呼吸器疾患		
7	身体健康(2)	腹痛、食中毒		
8	身体健康(3)	膠原病、腎疾患(人工透析)		
9	身体健康(4)	生活習慣病		
10	精神健康(1)	メンタルヘルス、ノイローゼ		
11	精神健康(2)	大学生の不登校		
12	精神障害	総合失調症、うつ病		
13	精神健康増進	自閉症、思春期妄想症		
14	最近の話題(1)	メタボリックシンドローム		
15	最近の話題(2)	健康管理論まとめ		

教 科 書	「学生と健康」国立大学等保健管理施設協議会 編(南江堂)
参 考 書	「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著(南江堂)

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	実習および講義
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す
学 習 到 達 目 標	1年次後期の心理学, 2年次前期の臨床心理学をベースに, 実際に医療機関や福祉施設などで治療・看護に従事する際に必要な治療的対人コミュニケーションの知識や技術を習得することが目標である(2年次前期の臨床心理学を履修していることが望ましい。未履修者は臨床心理学の概説書を読んでから受講されたい)。
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	レポート2本(あわせて50%), プレゼンテーション評価(20%), 出席(30%)を総合して評価する。なお, 第1回の講義時にプレゼンテーションのグループ分けを行うので, 第1回の講義に出席していない学生の履修は認めない。また, ロールプレイやグループワークなどの実習, プレゼンテーションを行う予定のため, 意欲的な取り組みが求められるので, 留意すること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	・発達段階とカウンセリング	1. 子どもとカウンセリング - 障害を中心に - 2. 大人とカウンセリング - 精神疾患を中心に -		
3 4 5 6	・保健医療に生かすカウンセリング技法の習得	1. カウンセリングの方法と基本技法(1)【実習】 2. カウンセリングの方法と基本技法(2)【実習】 3. カウンセリングの方法と基本技法(3)【実習】 4. 自己理解と他者理解【グループワーク】		
7 8	・チーム医療に活かす心理学	1. がん医療【学生によるプレゼンテーション】 2. 心臓疾患【学生によるプレゼンテーション】 3. 糖尿病【学生によるプレゼンテーション】 4. 小児医療【学生によるプレゼンテーション】 5. アレルギー疾患【学生によるプレゼンテーション】 6. 脳外傷・脳血管障害【学生によるプレゼンテーション】 7. 生活習慣病予防【学生によるプレゼンテーション】 8. 高齢者医療【学生によるプレゼンテーション】		

教 科 書	「MBTI®質問紙(FORM M 手採点版)」JPP Inc. 一般書店では入手不可のため、授業時に代金と引き替えに配布
参 考 書	「医療心理学の新展開」鈴木伸一 編著(北大路書房)2008年 「独習 実践カウンセリング・ワークブック」福山清蔵(日本精神・技術研究所)1999年 「24の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法」町田いづみ(照林社)2006年

授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関 連 科 目	地域社会学 社会福祉・社会保障制度論
成 績 評 価 方 法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	福祉の捉え方	福祉とは何か	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 2. 社会保障制の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。 3. 社会福祉諸法の理念と施策 A. 社会福祉の理念と変換 4. 社会福祉行政 B. 社会福祉の民間活動 C. 国、地方公共団体の行政と組織およびマンパワー	【保健福祉行政論】 目標 1. 目標 2. 目標 3. 3. 地域保健医療福祉行政と保健師活動 C. 社会保障・社会福祉の制度 F. 介護保険制度
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について		
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について		
4	地域福祉の内容と展開			
5	サービスの実際	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する		
6	サービスの実際			
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて		
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。		
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。		
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方		
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」		
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。		
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。		
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的		
15	まとめ			

教 科 書	
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授業科目名	看護学入門	単位認定者	城生弘美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護学の入門編として、まず日常生活の中で遭遇する健康障害を例にあげ、どのような根拠に基づき症状緩和の方法を取るかを考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。
学習到達目標	1. 看護とは何かについて、多角的に学習し自己の考えを深める。 2. 健康とは何かについて、身近な経験を通して自己の考えを深める。 3. 保健・医療・福祉システムの中における看護職の職業に関する理解を深める。
関連科目	看護学概論、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる
成績評価方法	出席状況とレポート内容を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3	「看護」について	「看護職とは」を以下の側面から考える ・ 専門職とは ・ 実践科学とは ・ 教育制度の変遷 ・ 現在の看護組織 ・ 看護実践のための基準 ・ 看護に対する評価 ・ 歴史と今後の課題	基礎看護学 目標1：看護の基本となる概念についての理解を問う。 1. 看護の基本となる概念 A. 看護の本質(概念) a. ケアとケアリング d. 役割と機能 e. 対象者とその理解 f. 看護の変遷(ナイチンゲール、我が国の職業看護と教育制度) B. 人間と健康 a. 全体としての人間 b. 歴史的・関係的存在としての人間 c. 成長発達する存在・ライフサイクルと健康のかかわり d. 健康の諸定義、主観的健康と客観的健康 e. 健康の諸相 f. 健康への影響要因 C. 生活と健康 a. 基本的ニーズとその充足 b. 生活習慣とセルフケア c. 文化的規範と学習 d. 基本的ニーズと健康とのかかわり e. 生活の安全と環境 f. QOL g. 健康への影響要因	
4 5	「健康」について	「健康とは」を以下の側面から考える ・ 健康・病気の定義について ・ 身近な体験から		
6 7 8	保健・医療・福祉システムについて	「保健・医療・福祉システムとは」を以下の側面から考える ・ 保健・医療・福祉の概念とは ・ 保健・医療・福祉サービスの場について ・ 保健・医療・福祉チームとは ・ 保健・医療・福祉におけるケア提供と経済の動向と課題  課題レポート 1. 日常的に遭遇する看護ケアについて考える またそのケアの根拠について考える (例：発熱、嘔吐、下痢、便秘、骨折、擦り傷、切り傷、痛み、等) 2. ナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を読み、解釈・考察し、看護学の原典について思考を深める。	基礎看護学 目標：保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。 6. 看護の役割と機能を支える仕組み A. 看護活動の場と専門分化 b. 医療施設における看護活動 c. 保健福祉施設における看護活動 d. チーム医療における看護職の役割・活動 e. 看護職の各種資格と活動(認定看護師、専門看護師の活動を含む) C. 保健医療福祉の連携 a. 他職種との役割 b. 他職種との連携 c. チームアプローチの概念 E. 看護制度、看護行政 a. 看護制度の変遷 b. 看護教育制度の変遷 c. 看護行政の組織 d. 看護にかかわる診療報酬 e. 看護職員の確保 f. 看護職員の労働環境	

教科書	フロレンス・ナイチンゲール著「看護覚え書き」(日本看護協会出版会) 「看護学概論」川村佐和子他 編集(メディカ出版)
参考書	増田れい子「看護 ベッドサイドの光景」(岩波新書) 向井承子「看護婦の現場から」(講談社現代新書) 鈴木厚「日本の医療を問いなおすー医師からの提言」(ちくま書房)、この他随時紹介する。

授業科目名	看護学概論	単位認定者	城生弘美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護学入門の学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、制度の変化、法律改正、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。
学習到達目標	1. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面等を学び、社会における看護の役割を考察する。 2. 看護の対象である人間に関する洞察を深める。 3. 看護実践のための理論的根拠を学び、看護の本質を考える。 4. 看護援助の基本的技術について学習する。
関連科目	看護学入門を踏まえており、全ての専門科目の基礎となる。
成績評価方法	出席状況(講義に関する意見等を含む)とペーパー試験を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	看護職を取り巻く法的側面	看護職の職務の機能と役割について以下の側面から学習する。 ・ 法 ・ 法概念 ・ 保健師助産師看護師法について ・ 主な関連法規について ・ 医療事故における法的責任について ・ 看護実践に影響する法律について	必修問題 目標 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基本的知識を問う 5.関係法規 A.保健師助産師看護師法 a.保健師助産師看護師の業務 b.看護師に禁止されている業務 c.守秘義務 d.業務従事者届 B.看護師等の人材確保の促進に関する法律 a.基本的方針 b.養成制度 c.就業状況 社会保障制度と生活者の健康 目標 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う 1 2 .医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 A .保健師助産師看護師法 a.目的・定義 b.免許 c.業務 d.守秘義務 B .医療関係法規 a.医療法 b.医師法 C .医療サービスの供給体制 a.医療施設の機能 b.救急医療の充実 c.診療記録・情報公開 d.薬局の種類と機能 j.医療過誤 D .看護職員の確保・労働と関係法規 a.労働基準法 b.育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法> c.看護師等の人材確保の促進に関する法律	
3	看護職を取り巻く倫理的側面	看護職に必要な倫理的側面について以下の側面から学習する。 ・ 看護倫理とは ・ 看護における倫理の必要性 ・ 倫理的課題への対応 ・ 道徳的ジレンマとは	必修問題 目標 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基本的知識を問う 4 .看護の倫理 A.基本的人権の擁護 a.個人の尊厳 b.患者の権利 c.自己決定権と患者の意思 d.インフォームド Consent e.ノーマライゼーション f.情報管理(個人情報管理) B.看護倫理 a.看護職員の役割 b.看護の倫理綱領 c.倫理的葛藤と倫理調整 基礎看護学 目標 1 .看護の基本となる概念についての理解を問う D .看護倫理 a.基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳 b.医療の倫理原則 c.患者の権利 d.患者の尊厳、権利の擁護と看護の役割 e.専門職と倫理 f.倫理綱領 g.安全確保と抑制・拘束 h.インフォームド Consentと自己決定、代理意志決定 i.プラクティス保護と個人情報保護 j.終末期と看取りにおける患者・家族の意向確認と尊重	
4	看護の対象について	看護の対象である「人間」に対するの洞察を深めるために、以下の側面から学習する。 ・ 統合体としての人間について ・ 個人・家族・コミュニティ・地域社会とは ・ 健康障害をもつ対象の理解について	必修問題 目標 看護の対象者および看護活動の場に関する基本的知識を問う 6 .人間の特性 A .人間と欲求 a.基本的欲求 b.社会的欲求 B .患者の特性 a.QOL b.患者ニーズ c.健康に対する意識 d.疾病に対する意識 e.疾病・障害の受容過程 8 .患者と家族 A .家族の機能 a.家族関係 b.家族構成員 B .家族形態の変化 a.家族の多様性 b.構成員の変化 c.疾病が患者・家族に与え	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
5 6	看護実践のための理論的根拠について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライフサイクルと健康について</li> </ul> 看護実践のための理論的根拠について以下の側面から学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護理論とは</li> <li>・ 看護理論の分類</li> <li>・ 看護理論の変遷について</li> <li>・ 看護理論家と主な内容について</li> </ul>	る心理社会的影響  基礎看護学 目標 .看護の基本となる概念についての理解を問う 1 .看護の基本となる概念 A .看護の本質 a.ケアトケアリング b.看護理論(ニード論、相互作用/人間関係論) c.看護実践における理論知と実践知	
7 8	看護援助の基本的技術について	看護援助を実践する際に必要な基本的事項について、以下の側面から学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションについて</li> <li>・ 教育者およびカウンセラーとしての役割について</li> <li>・ 根拠に基づく援助の重要性について</li> <li>・ 看護過程を展開することについて</li> <li>・ 基本的看護技術について</li> <li>・ 看護援助のマネジメントの基本事項について</li> </ul>	必修問題 目標 看護の対象者および看護活動の場に関する基本的知識を問う 9 .主な看護活動展開の場と看護の機能 A .医療提供施設 a.病院 b.診療所 c.助産所 d.介護老人保健施設 D .看護管理 a.看護体制 b.看護チーム E .関連職種との連携 a.関連する職種 b.チーム医療 c.看護の役割 目標 看護技術の基本を問う 1 4 .基本技術 A .コミュニケーション a.言語的コミュニケーション b.非言語的コミュニケーション c.面接技法  基礎看護学 目標 看護の基本となる概念についての理解を問う 2 .看護の展開 A .信頼関係の構築 a.援助の人間関係 b.共感、傾聴 c.患者・利用者・家族との協同 d.目標の共有 C.看護実践過程 a.根拠に基づいた看護<EBN>の概念 b.クリティカルシンキング 目標 基本的看護技術についての理解を問う 3 .共通基本技術 A.コミュニケーションの技術 a.コミュニケーションの構造・種類 F.安全管理の技術 e.インシデント、医療事故、医療過誤の概念と内容 f.インシデントレポート、医療事故報告の目的と活用 目標 .保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う 6 .看護の役割と機能を支える仕組み A.看護活動の場と専門分化 b.医療施設における看護活動 c.保健福祉施設における看護活動 d.チーム医療における看護職の役割・活動 e.看護職の各種資格と活動(認定看護師、専門看護師の活動を含む) B.継続看護 a.施設内における継続 b.施設間継続 d.経時的変化に対する継続看護 E.看護制度、看護行政 a.看護制度の変遷 b.看護教育制度の変遷 c.看護行政の組織 d.看護にかかわる診療報酬 e.看護職員の確保 f.看護職員の労働環境	

教科書	「看護学概論」川村佐和子他(メデイカ出版)
参考書	なし

授業科目名	看護援助学	単位認定者	真砂涼子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメント技術を理解し、日常生活援助技術の根拠を理解する。
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. フィジカルアセスメントの意義と対象者の状態を理解するためのフィジカルアセスメント技術の基本を学習する。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。
関連科目	関連する教養科目 - 心理学、環境学 関連する専門基礎科目 - 解剖学、解剖学、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論
成績評価方法	出席状況、レポートおよび定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	対象者に適した看護援助とは	対象者に適した看護援助について、看護援助の本質および看護援助における人間関係の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの意義と看護師の役割を学ぶ。	基礎看護学 目標 1.看護の基本となる概念についての理解を問う 2.看護の展開 A.信頼関係の構築 a.援助的人間関係 目標 1.基本的看護技術についての理解を問う 3.共通基本技術 D.観察技術 a.ヘルシアセスメントの基礎知識	
2	コミュニケーションについて	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。	基礎看護学 目標 3.共通基本技術 A.コミュニケーションの技術	
3	フィジカルアセスメントについて	フィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本技術を学ぶ。生命の徴候(バイタルサイン)を正確に把握するための測定方法について学ぶ	必修 目標 14基本技術 B.フィジカルアセスメント、基礎看護学 目標 3.共通基本技術 D.観察技術	
5	療養環境について	人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。	必修: 目標 16.患者の安全安楽を守る技術 A.療養環境 a)ベッド b)病室環境 基礎看護学 目標 4.基本的日常生活類が技術 A.環境と整える技術	
6	安全・安楽について	対象者の安全・安楽の重要性と医療者が対象者の安全と安楽を確保する方法について学ぶ。	必修 目標 16.患者の安全安楽を守る技術 B.医療安全対策 基礎看護学 目標 3.共通基本技術 F.安全管理の技術 G.安楽確保の技術	
7	感染予防について	医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。	必修 目標 16.患者の安全安楽を守る技術 C.院内感染防止対策	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8 9	清潔保持について	清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 15. 日常生活援助技術 C. 清潔 基礎看護学 目標 4. 基本的日常生活援助技術 E. 清潔・衣生活の援助技術	
10	排泄について	排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 15. 日常生活援助技術 B. 排泄 基礎看護学 目標 4. 基本的日常生活援助技術 C. 排泄の援助技術	
11	食生活と栄養について	食生活と栄養に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の食事に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 15. 日常生活援助技術 A. 食事 17. 診療に伴う看護技術 A. 栄養概念 基礎看護学 目標 4. 基本的日常生活援助技術 D. 食生活の援助技術	
12	休息・睡眠について	休息・睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の休息・睡眠に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 15. 日常生活援助技術 D. 活動・休息 基礎看護学 目標 4. 基本的日常生活援助技術 D. 活動・休息の援助技術	
13	活動・運動について	活動・運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の活動・運動に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。		
14	死亡時のケアについて	死の徴候と死亡時の対象者・家族への援助について学ぶ。	基礎看護学 目標 3. 共通基本技術 H. 死亡時のケア	
15	まとめ	日常生活援助技術についてのまとめを行う。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他（メディカ出版） 「ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他（メディカ出版）
参考書	「写真でわかる基礎看護技術 1」村上美好（インターメディカ） 「写真でわかる基礎看護技術 2」村上美好（インターメディカ）

授業科目名	看護援助学	単位認定者	真砂涼子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの知識・技術を踏まえ、診療に伴う援助技術の根拠を理解する。
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. 対象者の状態を理解し、対象者のニーズに対応するためのフィジカルアセスメント技術の活用を学習する。 3. 診療に伴う援助技術について、根拠に基づいて理解する。
関連科目	関連する教養科目 - 心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目 - 主に解剖学、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論、看護援助学、看護援助学演習、その他各看護学総論
成績評価方法	出席状況、レポートおよび定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	診療に伴う援助技術とは 看護記録・報告について	診療に伴う援助技術について、看護師の役割と他職種との連携の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの活用について学ぶ。看護援助の実施および評価に伴う記録・報告について学ぶ。	必修 目標 .看護技術の基本を問う 14.基本技術 B.フィジカルアセスメント D.看護記録 基礎看護学 目標 .基本的看護技術についての理解を問う 3.共通基本技術 B.教育指導の技術 C.看護過程展開の技術 e.看護記録の意義 必要性と種類 F.報告の必要性と方法	
3 4	検査時の援助技術について	検査(検体検査、生体検査)の概要を学ぶ。検査時の看護師の役割について学ぶ。検体検査での検体の取り扱いおよび検査時の対象者への対応について学ぶ。生体検査の種類および検査時の対象者への対応について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 D.採血、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 E.生体機能管理技術	
5	処置時の援助技術について	処置の概要を学ぶ。処置時の看護師の役割について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 H.救急救命処置 I.皮膚・創傷の管理 J.災害看護、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 B.創傷管理技術 D.救急救命処置技術	
6	呼吸を楽にする技術について	呼吸を楽にする技術(吸引・吸入、姿勢・呼吸法)について、具体的援助方法について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 F.呼吸管理 G.吸引、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術	
7	フィジカルアセスメントについて 電法について	フィジカルアセスメントで得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(電法)について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 E.電法、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 g.温電法、冷電法	
8 9	創傷管理技術について	創傷管理における具体的援助方法について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 I.皮膚・創傷の管理 b.創傷の管理 c.褥瘡の予防・処置、基	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10 11 12 13 14	与薬に伴う看護技術について	<p>薬剤の生体への影響と薬剤の種類と取り扱いについて学ぶ。</p> <p>薬剤管理における看護師の役割と具体的取扱い方法を学ぶ。</p> <p>薬剤投与の方法について理解する。内服による薬剤投与時の援助技術を学ぶ。</p> <p>注射(筋肉内注射・皮下注射・皮内注射)に伴う援助技術について学ぶ。</p> <p>輸液による薬剤投与の管理方法(静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ)について学ぶ。</p>	<p>基礎看護学 目標 5. 診療に伴う技術 B. 創傷管理技術</p> <p>必修 目標 17. 診療に伴う看護技術 B. 薬物療法 C. 輸液管理、基礎看護学 目標 5. 診療に伴う技術 C. 与薬の技術</p>	
15	まとめ	診療に伴う援助技術についてのまとめを行う。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他 (メディカ出版) 「ヘルスアセスメント」川村佐和子他 (メディカ出版)
参考書	「写真でわかる基礎看護技術 1」村上美好 (インターメディカ) 「写真でわかる基礎看護技術 2」村上美好 (インターメディカ) 「写真でわかる臨床看護技術」村上美好 (インターメディカ)

授業科目名	看護援助学演習	単位認定者	真 砂 涼 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護援助学 における学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助技術に必要な看護援助の基本的技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 日常生活を援助する基本的技術について、その根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関 連 科 目	関連する教養科目 - 心理学、環境学 関連する専門基礎科目 - 解剖学、解剖学、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論、看護援助学
成 績 評 価 方 法	出席状況、筆記試験および実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1 2 3 4	講義・演習ガイダンス 感染予防について(1) 生活環境について	講義演習スケジュールおよび看護学演習室の使用方法について学ぶ。 感染予防の方法であるスタンダードプリコーションと手洗い方法について学ぶ。 健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。 ボディメカニクスの原理を体現する。 ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。	必修 目標 16.患者の安全 安楽を守る技術 C.院内感染防 止対策 a.スタンダードプリコ ーション B.手洗いの方法 f. 感染性廃棄物の取り扱い	
5 6 7 8 9	フィジカルアセスメントについて(バイタルサイン測定含む)	生命の徴候(バイタルサイン)を正確に測定する方法を習得する。 呼吸器系、循環器系、消化器系(腹部)、筋肉・神経系、頭部・顔面のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる方法を習得する。	必修 目標 14基本技術 B. フィジカルアセスメント a.バ イタルサイン(体温・呼吸・脈拍 ・血圧)の測定と評価 C.呼吸音 聴取の方法と評価 d.腸鳴音 聴取の方法と評価 e.運動系の 観察と評価:日常生活動作(ADL) ・間接的動作(ROM)・徒手筋力測 定(MPT) 基礎看護学 目標 3.共通基本技術 D.観察技術 a.ヘルスアセスメントの基礎 知識 c.一般状態のアセスメン トと評価	
10	感染予防について(2)	基本的な滅菌操作(滅菌手袋の扱い、滅菌物の扱い)を習得する。	必修 目標 16.患者の安全 安楽を守る技術 C.院内感染防 止対策 c.無菌操作 d.滅菌と 消毒の方法 基礎看護学 目 標 3.共通基本技術 F.安全 管理の技術 a.安全対策	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11 12	活動と運動、休息と睡眠について	様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換方法を習得する。 ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。	必修 目標 15.日常生活援助技術 D.活動・休息 b.移動・移送 c.廃用症候群の予防 E.ボデーメカニクス b.体位変換の基本 c.移動介助での基本 16.患者の安全・安楽を守る技術 B.医療安全対策 a.転倒・転落の防止 基礎看護学 目標 3.共通基本技術 F.安全管理の技術 c.転倒・転落の起こりやすい状況と対策 G.安楽確保の技術 b.体位の種類と身体への影響 安楽な姿勢・体位の特徴 4.基本的日常生活援助技術 D.活動・休息の援助技術 b.体位変換 c.床上移動 d.車椅子への移動・移送 e.ストレッチャーへの移動・移送	
13 14 15 16	まとめ(1)	バイタルサイン測定についての実技テストを実施する。		
17 18	食生活と栄養の援助について	食事の援助方法を習得する。 健康状態に応じた栄養法(経管栄養法を含む)を習得する。	必修 目標 15.日常生活援助技術 A.食事 a.食事の環境 b.食事介助の方法 c.誤嚥の予防 16.患者の安全・安楽を守る技術 B.医療安全対策 d.誤嚥・窒息の防止 17.診療に伴う看護技術 A.栄養補給 a.経管栄養法 b.経管栄養法 基礎看護学 目標 4.基本的日常生活援助技術 D.生活の援助技術 f.食事摂取の援助方法 h.経管栄養法 i.経管栄養法	
19 20 21 22	身体の清潔保持と衣生活について	口腔ケアの援助方法を習得する。 全身清拭、寝衣交換の方法を習得する。 洗髪の方法を習得する。 足浴、手浴の方法を習得する。	必修 目標 15.日常生活援助技術 C.清潔 b.清拭 c.口腔ケア d.洗髪 e.部分浴 g.整容 h.寝衣交換 基礎看護学 目標 3.共通基本技術 G.安楽確保の技術 c.身体ケアを通じてもたらされる安楽4.基本的日常生活援助技術 E.清潔・衣生活の援助技術 b.身体各部分の清潔の援助方法 c.病衣の選択 d.寝衣交換	
23 24 25 26	排泄援助について	床上排泄(便尿器の与え方)の方法を習得する。 浣腸法の方法を習得する。 導尿法(一時的導尿法、持続的導尿法)について習得する。	必修 目標 15.日常生活援助技術 B.排泄 a.床上排泄 b.導尿 c.浣腸 C.清潔 f.陰部洗浄 基礎看護学 目標 4.基本的日常生活援助技術 C.排泄の援助技術 c.自然な排便・排尿を促す援助方法 d.トイレ歩行・ポータブルトイレの援助方法 e.床上での尿器・便器・おむつによる援助方法 f.浣腸・摘便 f.導尿・膀胱留置カテーテル	
27 28 29 30	まとめ(2)	日常生活援助技術についての実技テストを実施する。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他(メディカ出版) 「ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他(メディカ出版) 「写真でわかる基礎看護技術1」村上美好(インターメディカ) 「写真でわかる基礎看護技術2」村上美好(インターメディカ)
参考書	

授業科目名	看護援助学演習	単位認定者	真 砂 涼 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護援助学演習 を踏まえ、対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の基本的技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を適切に実施できる。 2. 診療に伴う基本的な援助技術について、その根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関 連 科 目	関連する教養科目 - 心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目 - 主に解剖学、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論、看護援助学、看護援助学演習、看護援助学、その他各看護学総論
成 績 評 価 方 法	出席状況 筆記試験および実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1 2	フィジカルアセスメントについて	対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術の看護援助への活用について理解する。	必修 目標 看護技術の基本を問う 14.基本技術 C.看護過程 a.情報収集 b.アセスメント c.計画立案、基礎看護学 目標 基本的看護技術についての理解を問う 3.共通基本技術 D.観察技術 c.一般状態のアセスメントと評価	
3	生体検査について	生体検査時の看護師の役割について理解し、援助方法について習得する。 ・ 呼吸機能を測定する器具(スパイロメーター、経皮的動脈血酸素飽和度)について理解し、扱い方を習得する。 ・ 心電図の原理を理解する。	基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 b.酸素吸入の適応と方法 c.経皮的動脈血酸素飽和度<SpO2>の測定 E.生体機能管理技術 c.生体検査 f.ME 機器の取り扱いとモニタリング	
4	検体検査について	検体検査時の看護師の役割について理解し、援助方法について習得する。 ・ 検体(血液、尿)の採取方法と取り扱いについて理解する。 ・ 生体検査時の対象者への対応について理解する。	必修 目標 16.患者の安全・安楽を守る技術 C.院内感染防止対策 e.針刺し・切創の防止 17.診療に伴う看護技術 D.採血 a.穿刺部位 b.採血方法、基礎看護学 目標 3.共通基本技術 E.感染予防の技術 f.針刺し事故防止 5.診療に伴う技術 E.生体機能管理技術 a.診察・検査時の看護師の役割 b.検体検査と尿、便、喀痰、血液の採取方法	
5 6 7 8	実技試験(1)	対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術についての実技試験を実施する。		
9 10	呼吸を楽にする技術について	吸引についての方法を習得する。 酸素吸入、ネブライザー、体位ドレナージについての方法を習得する。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 F.呼吸管理 a.酸素吸入時の原則 b.酸素ポンベの取り扱い c.酸素流量計の取り扱い d.鼻腔カニューラ e.酸素マスク f.ネブライザー G.吸引 a.口腔・鼻腔吸引 c.体位ドレナージ、	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11	電法について	フィジカルアセスメントで得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(電法)を習得する。	基礎看護学 目標 3. 共通基本技術 F.安全管理の技術 d.チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 G.安楽確保の技術 d.安楽を保つための医療環境の調整 15.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 a.呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 b.酸素吸入の適応と方法 d.口腔内・鼻腔内・気管内吸引 f.排痰法 必修 目標 17.診療に伴う看護技術 E.電法 a.電法の種類と適応 b.温電法の方法 c.冷電法の方法、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 g.温電法、冷電法 h.保温・体温管理	
12	創傷管理技術について	創傷管理について理解し、褥瘡の予防・処置、ドレッシング・包帯についての方法を習得する。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 l.皮膚・創傷の管理 a.包帯法 b.創傷の管理 c.褥瘡の予防・処置、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 B.創傷管理技術 b褥瘡の予防、処置、c.ドレッシング・包帯法	
13 14 15 16	実技試験(2)	静脈採血についての実技テストを実施する。		
17 18 19 20 21 22	与薬の技術	薬剤の与薬方法について理解し、基本的な技術について習得する。 ・ 与薬方法(経口・注射・塗布・点眼・点鼻・吸入・経直腸) ・ 注射方法(筋肉内注射・皮下注射・皮内注射) ・ 輸液管理方法(静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ)	必修 目標 16.患者の安全・安楽を守る技術 B.医療安全対策 b.誤薬の防止 c.患者誤認の防止 C.院内感染防止対策 e.針刺し・切創の防止 17.診療に伴う看護技術 B.薬物療法 a.与薬方法 b.薬効・副作用(有害事象)の観察 C.輸液管理 a.刺入部位の観察 b.輸液ポンプの取り扱い c.点滴静脈注射の管理、基礎看護学 目標 3.共通基本技術 E.感染予防の技術 f.針刺し事故防止 F.安全管理の技術 a.安全管理対策 b.誤与薬の起こりやすい状況と対策 d.チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 G.安楽確保の技術 d.安楽を保つための医療環境の調整 5.診療に伴う技術 C.与薬の技術 a.薬剤の作用・投与量・投与方法による生体への影響、起こりやすい合併症、生活への影響 b.薬剤の種類と取り扱い方法 c.与薬法 d.副作用の徴候の観察	
23 24 25 26	実技試験(3)	皮下注射法についての実技テストを実施する。		
27 28 29 30	まとめ	提示された課題に基づき、まとめを行う。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他(メディカ出版) 「ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他(メディカ出版) 「写真でわかる臨床看護技術」村上美好(インターメディカ) 「写真でわかる基礎看護技術 1」村上美好(インターメディカ)
参考書	「写真でわかる基礎看護技術 2」村上美好(インターメディカ)

授 業 科 目 名	看 護 過 程 論	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	情報収集、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価の構成要素からなる看護過程について学び、対象者の状況に合わせて展開できるための基礎的能力を身につける。複数の紙上事例を用いて、看護過程展開について学習する。臨床実習で受け持つ対象者の看護援助時に看護援助計画立案までの過程を考察できるまでの基本的な学習を行う。
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義を述べることができる。</li> <li>2. 紙上事例の情報の分類を行い、得られた事実に関するアセスメント（解釈・判断）ができる。</li> <li>3. 紙上事例のアセスメント結果から、適切な看護診断について、優先順位を考えながら導きだすことができる。</li> <li>4. 紙上事例の患者目標と達成の時期の設定の仕方を考えることができる。</li> <li>5. ケアプラン・評価の仕方が理解できる。</li> <li>6. 複数の事例についても1.～5.の計画立案ができる。</li> </ol>
関 連 科 目	専門基礎科目群：解剖学、生理学、薬理学、疾病の成り立ち、臨床検査学、 専門科目群：看護学概論、看護援助学、看護援助学演習 以上の科目と密接な関連がある。
成 績 評 価 方 法	出席状況、演習への取り組みとグループワークの成果、個人ワークの成果、筆記試験を総合して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4	ガイダンス 看護過程とは 看護過程の要素 情報収集について	看護過程を学習する意義と看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。 問題解決法、クリティカルシンキング、意思決定など 看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。情報収集の際に必要な主観的データ・客観的データの整理について学習する。	必修問題 目標 看護技術の基本を問う 14.基本技術C看護過程 a.情報収集 b.アセスメント c.計画立案 d.実施 e.評価 D.看護記録 a.記録形式	
5 6	情報の整理と解釈について	事例1を用いて、情報とは、その中の主観的データと客観的データについて具体的に進める。	基礎看護学 目標1：看護の基本となる概念についての理解を問う	
7 8	アセスメントについて（関連図を含む）	事例1を用いて、アセスメントとは、関連図を用いる意味について学習する。	2.看護の展開 A.信頼関係の構築 d.目標の共有 B.問題解決過程 a.看護過程・看護診断の概念 b.看護過程の構成要素 c.看護理論と看護過程	
9 10	看護診断について（関連図を含む）	事例1を用いて、看護診断の導きだし方について学習する。またその際に関連図を用いることの意味を学習する。	基礎看護学 目標2：基本的看護技術についての理解を問う	
11 12	看護計画の立案について	事例1を用いて、どのような看護計画が立案できるか学習する。	3.共通基本技術 C.看護過程展開の技術 a.情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合 b.看護問題の明確化と優先順位決定 c.看護目標の設定と計画 d.評価 e.看護記録の意義、必要性和種類 f.報告の必要性和方法 g.医療計画とクリニカルパス	
13 14	看護計画の実施・評価について	事例1を用いて、立案した計画を実施する際の注意事項や評価の視点について学習し、理解する。		
15 16	情報収集と整理	事例2を用いて、事例1で学習したことを踏まえ、個人ワークにより、情報収集と情報の整理・解釈を行う。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17 18	アセスメント	事例2を用いて、前回の個人ワークを踏まえ、ゴードンの機能的健康パターンのクラスターごとの情報解釈と情報の分析についてグループワークを行う。		
19 20	看護診断	事例2を用いて、関連図の作成と情報分析・看護診断の整理との関連について、グループワークを行う。		
21 22	看護計画立案	事例2を用いて、看護目標と具体的な看護計画の立案について、グループワークを行う。		
23 24	看護計画発表会	事例2についてグループワークで立案した看護計画について発表し、それぞれのグループに考えを知ることにより、対象者に合わせたより良い看護計画とは何かを考える。		
25 26 27 28	看護計画立案演習	事例3について、個人ワークを行い、既に学習したことを踏まえて、対象者のニーズに合わせた自分なりの看護計画立案を実施する。		
29 30	看護計画立案に関するまとめ	提示された事例3および基礎看護学実習の受け持ち患者さんに立案した計画についてまとめを行う。		

教科書	「ゴードンの機能的健康パターン 看護過程と看護診断」江川隆子 編（ヌーヴェルヒロカワ） 「看護診断ハンドブック」新道幸恵 監修（医学書院） 「看護データブック」神田清子 編（医学書院）
参考書	「カルペニート 看護過程・看護診断入門」リンダ J.カルペニート、藤崎郁 訳（医学書院） 「これなら使える看護診断」江川隆子 編（医学書院） 「NC ブックス 関連図の書き方をマスターしよう」吉澤理 編（医学芸術社）

授業科目名	成人看護学総論	単位認定者	牛 込 三 和 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 ライフサイクルにおける成人期の特性を理解する。 2 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。
関 連 科 目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成 績 評 価 方 法	レポート(補足) 筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	成人看護学の概要 成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握	必修問題 目標 : 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。	
2	成人各期の特徴と保健問題	青年期の特徴と保健問題、 壮年期の問題と保健問題、 向老期の問題と保健問題	7. 人間の成長と発達 目標 : 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。	
3	成人保健 1 生活習慣病の予防 1	生活習慣病対策: 糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満 糖尿病を中心に 患者の体験 患者を生きる	10. 生命活動	
4	成人保健 2 生活習慣病 2	がんの動向、がん対策、システム がん対策基本法 がん患者の体験	成人看護学 目標 : 成人の生活と健康についての理解を問う。	
5	成人保健 3	成人保健と性、成人保健と労働	1. 成人の特徴 2. 成人 特有な健康問題の特徴	
6	環境と健康問題	環境と健康問題	目標 : 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。	
7	成人期にある人の健康障害と看護	成人期にある人の健康障害と看護: 病とともに生きる人々を支える看護	3. 成人の特性や能力に応じたアプローチ 4. 健康の保持・増進、疾病の予防に向けたアプローチ	
8	まとめ	まとめ	目標 . 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 6. 生涯への適応と社会復帰への看護 整 7. 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 8. 終末期の看護	

教 科 書	「新体系看護学 14 成人看護学概論・成人保健」野口美和子編集(メヂカルフレンド社)
参 考 書	「国民衛生の動向 厚生指針 53(9) 2006」(厚生統計協会)ほか、授業で紹介する

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	栗田昌裕 概論 1	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療	必修問題 目標 .看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。	
2	概論 2		10.生命活動	
3	消化器疾患 1		11.病態と看護	
4	消化器疾患 2		12.主要疾患と看護 13.薬物治療に伴う反応	
5	消化器疾患 3		疾病の成り立ちと回復の促進	
6	呼吸器疾患 1		目標 .疾病の特性について理解を問う。	
7	呼吸器疾患 2		4.神経機能の障害	
8	呼吸器疾患 3		5.呼吸機能の障害	
9	循環器疾患 1		6.循環機能の障害	
10	循環器疾患 2		7.造血機能の障害	
11	循環器疾患 3		9.栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害	
12	血液・造血器疾患			
13	神経系疾患 1			
14	神経系疾患 2			
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】」(医学書院)
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 自己免疫疾患、感染症、内分泌代謝疾患、糖尿病、腎泌尿器系疾患、女性生殖器疾患、運動器疾患、感覚器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	小林 功 自己免疫疾患 1	主な自己免疫疾患の病態生理、症状、検査、治療	必修問題 目標 .看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 10.生命活動 11.病態と看護 12.主要疾患と看護 13.薬物治療に伴う反応  疾病の成り立ちと回復の促進 目標 .疾病の特性について理解を問う。 4.神経機能の障害 8.免疫機能の障害 10.排泄機能の障害 11.内部環境調節機能の障害 12.運動機能の障害 13.生殖機能の障害	
2	自己免疫疾患 2	主な自己免疫疾患の病態生理、症状、検査、治療		
3	感染症疾患	主な感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療		
4	内分泌代謝疾患 1	主な内分泌代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
5	内分泌代謝疾患 2	主な内分泌代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
6	糖尿病 1	糖尿病の病態生理、症状、検査、治療		
7	糖尿病 2	糖尿病の病態生理、症状、検査、治療		
8	腎泌尿器系疾患 1	主な腎泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
9	腎泌尿器系疾患 2	主な腎泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
10	女性生殖器疾患	主な女性生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
11	運動器疾患 1	主な運動器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
12	運動器疾患 2	主な運動器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
13	感覚器疾患 1	主な感覚器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
14	感覚器疾患 2	主な感覚器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】」
参 考 書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学	単位認定者	北林 司
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	1 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学習到達目標	1 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成績評価方法	筆記試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3	牛込三和子 臨床看護総論 1 臨床看護総論 2 臨床看護総論 3	成人看護を学ぶにあたって 病期と看護（急性期、回復期、慢性期） 検査・治療と看護	必修問題 目標：看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 12. 主要疾患と看護	
4 5 6 7	北林 司 消化器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 まとめ 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護 1 主な疾患と看護 2	成人看護学 目標：成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 5. 急激な身体損傷により急性期にある患者の看護	
8 9 10 11	鈴木珠水 呼吸器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 まとめ 2	観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護 1 肺癌 主な疾患と看護 2 慢性呼吸不全 気管支喘息	9. 呼吸機能障害のある患者の看護 10. 循環機能障害のある患者の看護	
12 13 14 15	北林 司 循環器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 まとめ 3	観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護 1 主な疾患と看護 2	11. 栄養摂取・代謝障害のある患者の看護	

教科書	「系統看護学講座 成人看護学【2】・【3】・【5】」(医学書院)
参考書	随時紹介する。

授業科目名	老年看護学総論	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。
学習到達目標	1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。 2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。 4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成績評価方法	ミニテスト、演習レポート、期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ライフサイクルの中の老年期	老いるということ、ライフサイクルにおける老年期	老年看護学 目標 . 老年期を生きる人々の生活と健康についての理解を問う。	
2	高齢社会と高齢者の生活	統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし	1. 老年期の理解 A. ライフサイクルからの老年期の理解 B. 人口学的指標からの老年期の理解	
3	加齢とからだ、こころ	加齢による身体的変化、心理・社会的変化	C. 健康指標からの老年期の理解	
4	老化疑似体験	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解	3. 老年期を生きる人々の健康 A. 加齢に伴う変化 B. 高齢者にとつての健康	
5	高齢者のライフヒストリー	実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解	1. 老年期の理解 D. 生活視点からの老年期の理解	
6	高齢者の健康を支援する制度・システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護	2. 老年期を生きる人々の特徴 A. 老年期の発達と成熟 B. 高齢者の多様性	
7	老年看護の役割	老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割	4. 高齢者をとりまく社会 A. 高齢者と家族 B. 高齢者と社会システム	
8	まとめ		目標 . 健康レベルや療養形態に応じた高齢と、その家族に対する看護実践についての理解を問う。 5. 老年看護の基本的考え方と課題 A. 高齢者と QOL C. 老年看護における倫理的課題 目標 . 保健医療福祉制度の変革が老年看護に与える影響、看護師の果たす役割の変化についての理解を問う。 10. 介護保険と老年看護 A. 高齢者の保健医療福祉の関連施設における看護 B. 在宅高齢者の看護	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師

教科書	「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」第7版（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向」2010年（厚生統計協会）

授業科目名	老年看護学	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。
学習到達目標	1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。 2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。 3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。 4. 高齢者における、手術、薬物療法、リハビリテーションの特徴と看護を理解する。
関連科目	解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、リハビリテーション概論
成績評価方法	ミニテスト、レポート、期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	高齢者の生理的特徴	老化と寿命、身体機能の加齢変化(認知・知覚、呼吸・循環、代謝・排泄、免疫、運動、性機能)	老年看護学 7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護  A. 脱水症 D. 癢痒症 E. 尿失禁 F. 便秘・下痢 G. 睡眠障害 H. 視覚障害 I. 聴覚障害 J. 廃用症候群 K. 骨粗鬆症 L. うつ病 M. せん妄 N. 認知症 O. パーキンソン症候群、廃用症候群 P. 感染症  8. 治療を受ける高齢者への看護 A. 薬物療法 B. 手術療法 C. リハビリテーション D. 受療形態に応じた高齢者への看護	
2	高齢者の症候	不眠、難聴、視力障害		
3	高齢者の症候	廃用症候群、便秘・下痢、脱水症		
4	高齢者の疾患	認知症		
5	高齢者の疾患	精神・神経疾患(せん妄、うつ病)		
6	高齢者の疾患	精神・神経疾患(脳血管障害、パーキンソン病)		
7	高齢者の疾患	循環器疾患(虚血性心疾患、心不全)		
8	高齢者の疾患	呼吸器疾患(肺炎、閉塞性肺疾患、結核)		
9	高齢者の疾患	腎・泌尿器疾患(腎不全、前立腺肥大症)		
10	高齢者の疾患	運動器疾患(大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆)		
11	高齢者の疾患	皮膚・感覚器疾患(皮膚掻痒症、疥癬、白内障)		
12	高齢者の疾患	感染症(インフルエンザ、食中毒)		
13	高齢者と治療	高齢者と薬物療法		
14	高齢者と治療	高齢者と手術療法、		
15	高齢者と治療	高齢者とリハビリテーション		
	まとめ			

教科書	「系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論」第3版(医学書院)
参考書	

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習
科 目 の 目 的	高齢者の健康の維持・増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方や看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 高齢者の健康の維持・増進のための支援・教育の内容と方法を理解する。 2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。 3. 高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。 4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。 5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。
関 連 科 目	老年看護学概論、老年看護学、基礎看護学、成人看護学
成 績 評 価 方 法	ミニテスト、レポート、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康の維持・増進活動	食生活、排泄、清潔	老年看護学 目標 6. 高齢の生活を支える看護 A. 高齢者の生活機能と包括的アセスメント B. コミュニケーション C. 歩行・移動 D. 転倒 E. 食生活 F. 排泄 G. 排泄、清潔・衣生活 H. 活動と休息 I. 性 J. 社会参加 7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 B. 摂食・嚥下障害 C. 低栄養状態 D. 痒痒症 E. 尿失禁 F. 便秘・下痢 9. 高齢者の終末期の看護 A. 高齢者の死にかかわる権利と医療・ケア提供者の責務・役割 B. 終末期看護の実践 C. 看取りを終えた家族への看護	
2	健康の維持・増進活動	歩行・移動、活動と休息		
3	健康の維持・増進活動	生きがいと社会活動、メンタルヘルス、セクシャリティ		
4	老年期の看護問題	基本動作 - 転倒		
5	老年期の看護問題	食事 - 摂食・嚥下障害		
6	老年期の看護問題	排泄 - 排尿障害、排便障害		
7	老年期の看護問題	清潔 - 褥そう、ドライスキン		
8	老年期の看護問題	認知機能 - 認知症		
9	老年期の看護問題	事故予防と救急時の対応、介護家族の健康		
10	エンドオブライフケア	終末期にある高齢者と家族		
11	エンドオブライフケア	死後の処置（演習）		
12	高齢者のアセスメント技術	健康歴の聴取、認知機能		
13	高齢者のアセスメント技術	身体機能		
14	高齢者のアセスメント技術	フィジカルアセスメント（演習）		
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」第7版（医学書院）
参 考 書	

授業科目名	小児看護学総論	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	次世代を担う存在である子どもとその家族の健康生活のために、小児看護が果たす役割と課題について学ぶ。今日の子どもの置かれている状況と、子どもが健やかに発育するための社会システム・保健医療システムを学び、子どもの健康問題解決のための方略について考察する。
学習到達目標	1. 現代社会における小児看護の意義と役割を理解する。 2. 子どもの成長発達・健康・生活の概念を理解する。 3. 子どもの生活援助に必要な基礎知識を理解する。 4. 子どもの健康な成長発達を支援するための社会システム・保健医療システムを理解する。
関連科目	母性・小児看護学(小児看護学、小児看護学、小児看護学、小児看護学特論、母性看護学総論、母性看護学、母性看護学、母性看護学特論)、臨地実習(小児看護学実習)、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、教育学、生命倫理、生活学・家族学、地域社会学、環境学など)、臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学ほか)、地域科目群(公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか)
成績評価方法	講義への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	子どもと環境	健康な子ども観、子どもが健康に生活すること健康な子どもの生活とライフサイクル、子どもの健康と家族の関係	【目標1】 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子ども健康増進のための看護  必修問題 . 4. 看護の倫理 . 2. 人間の成長と発達	地域看護学 6. 母子保健指導 B. 乳幼児期の成長発達と生活の特徴
2	子どもの成長発達と看護	成長発達とは、成長発達の原則、成長発達と発達課題		
3		形態的発育と機能発達、精神・運動機能の発達、		
4		成長・発達のアセスメントと評価、発達と環境		
5	子どもの栄養と食生活	子どもの栄養の特徴、発達段階と栄養所要量、発達段階と栄養摂取法の変化・吸啜から摂食へ、摂食機能の発達、乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養		
6	子どもをまもるための政策・小児保健活動の実際	子どもをまもるための法律と政策、予防接種、		
7		乳幼児期の保健・学校保健・思春期保健		
8		まとめ		

教科書	1. 「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編(メディカ出版)
参考書	

授業科目名	小児看護学	単位認定者	野田 智子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	常に成長・発達し続けている存在である子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受けどのように適応しようとしているのかを理解する。さらに、子どもにしやすい健康障害の特徴や、それぞれに対する有効な介入方法、すなわち小児看護の実際について学ぶ。
学習到達目標	1.健康障害が、子どもと家族に与える影響とそれに付随した生活の変化について理解する。 2.健康障害・闘病体験を通し、子どもと家族の反応や体験の意味付けについて理解する。 3.子どもにしやすい健康障害、症状、病理学的メカニズムを理解する。 4.健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解する。 5.健康障害を抱えた子どもと家族にとっての最善の利益に、小児看護が果たす役割を考察する。
関連科目	母性・小児看護学(小児看護学総論、小児看護学、小児看護学、小児看護学特論、母性看護学総論、母性看護学、母性看護学特論)、臨地実習(小児看護学実習)、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、教育学、生命倫理、生活学・家族学、地域社会学、環境学など)、臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学ほか)、地域科目群(公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか)
成績評価方法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	子どもと病気、子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴(潜伏期、急性期、回復期など)、ウイルス感染症、細菌感染症	【目標2】 1.病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A.病気や入院が子どもと家族に与える影響 B.ストレスを緩和するための看護	地域看護学 6.母子保健指導 D.健康上のリスクをもつ母子への保健師動 a)心身障害児 c)子どもの虐待
3	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症(かぜ症候群、急性咽頭炎、クループ症候群)、気管支・肺・胸膜疾患(急性気管支炎、細気管支炎、肺炎など)、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患(気管支喘息、アレルギー性鼻炎、食物アレルギーなど)、膠原病(若年性関節リウマチなど)	2.さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A.外来における子どもと家族 B.検査や処置を受ける子どもと家族 C.活動制限が必要な子どもと家族 D.隔離が必要な子どもと家族 E.先天的な問題をもつ子どもと家族 F.手術を受ける子どもと家族 G.心身障害のある子どもと家族 H.急性期にある子どもと家族 L.救急処置が必要な子どもと家族	
5	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性心疾患、後天性心疾患、消化器疾患による子どもの影響、子どもの全身麻酔と手術療法、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症など		
7	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、疾患別プロトコル、おもな小児がん(網膜芽腫、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、悪性リンパ腫、白血病、脳腫瘍、骨肉腫・ユースング肉腫など)、貧血・出血性疾患(再生不良性貧血、血管性紫斑病など)		
9	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	泌尿・生殖器・尿路の奇形(腎奇形、尿道下裂、停留精巣、膀胱尿管逆流症など)、腎糸球体疾患(糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全など)、新生児マススクリーニングテストについて、先天代謝異常症(ムコ多糖症、骨形成不全症、糖尿病など)、内分泌疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など)		
11	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患(水頭症、てんかん、進行性筋ジストロフィー症など)、運動器疾患(先天性股関節脱臼、先天性内反足、先天性筋性斜頸、ペルテス病、骨折と牽引療法など)、染色体異常(ダウン症候群、18トリソミー症候群など)		
13	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患、今日的課題	低出生体重児の疾患(分類、ハイリスク新生児、脳室内出血、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症、高ビリルビン血症、成熟異常など)、倫理的課題(傷害なき救命		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15		と生育限界など)、おもな事故・外傷(頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、中毒、熱傷など)と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、ADHD(注意欠陥多動性障害)、不登校、摂食障害、児童虐待  まとめ		

教科書	1.「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第11版」奈良間美保他著(医学書院)
参考書	

授業科目名	小児看護学	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	常に成長・発達し続けている存在である子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受けどのように適応しようとしているのかを理解する。さらに、子どもに起こりやすい健康障害の特徴や、それぞれに対する有効な介入方法、すなわち小児看護の実際について学ぶ。
学習到達目標	5. 健康障害が、子どもと家族に与える影響とそれに付随した生活の変化について理解する。 6. 健康障害・闘病体験を通し、子どもと家族の反応や体験の意味付けについて理解する。 7. 子どもに起こりやすい健康障害、症状、病理学的メカニズムを理解する。 8. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解する。 5. 健康障害を抱えた子どもと家族にとっての最善の利益に、小児看護が果たす役割を考察する。
関連科目	母性・小児看護学(小児看護学沿総論、小児看護学、小児看護学、小児看護学特論、母性看護学総論、母性看護学、母性看護学、母性看護学特論) 臨地実習(小児看護学実習) 基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など) 臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか) 地域科目群(公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか)
成績評価方法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	小児看護の理念 小児看護の歴史と将来	小児看護とは、小児看護と関連法、小児看護と倫理、子どもの人権、アドボカシ、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント	【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A. 病気や入院が子どもと家族に与える影響 B. ストレスを緩和するための看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	
2	子どもと健康障害、 子どもの闘病体験	病気、病気や入院が子どもに与える影響、病気や入院に対する子どもの反応(心理的混乱の表出方法)、子どもの心理的混乱の程度に関する要因、分離不安と看護の役割		
3	病気の子どもと家族	健康障害の子どもと家族、家族のセルフケア機能、家族の相互作用システム、子どもの健康障害が起こす家族の変化、きょうだい児への影響、家族システムへの影響、家族のストレス因子、家族のアセスメントと看護介入		
4	子どもへのインフォ ームド・コンセント	乳幼児期の子どもへの接近方法		
5	プリパレーション、 検査や処置を受ける 子どもの看護	プリパレーションの方法と内容、プリパレーション実施のプロセス、		
7	子どものヘルスアセ スメント・フィジカ ルアセスメント	成長発達のアセスメント、フィジカルアセスメント、身体発育の評価(観察・計測・指数、標準値との比較など) 精神・運動機能の発達評価、 子どもの一般状態の把握、子どものバイタルサインの測定・正常範囲と正常逸脱範囲、病気の子どもを観察方法、具体的観察のトレーニング	地域看護学 6. 母子保健指導 D. 健康上のリスクをもつ 母子への保健師動 a) 心身障害児 c) 子どもの虐待	
10	子どもの主要症状別 看護	子どもの身体状況が変化しやすい理由=機能的特徴、子どもの機能的発達の特徴(呼吸・循環・体温・消化・水分代謝など) 子どもに起こりやすいおもな症状のメカニズムとその看護(不機嫌、発熱、脱水、下痢・嘔吐、けいれんなど)		
13	子どもの安全	子どもの事故対策の必要性、子どもの事故の発生要因、子どもの事故の実態、事故防止の具体策・安全教育、「健康日本21」と「健やか親子21」、子どもの救急処置の実際		
14	病気の子どもの安全			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15		病気のこどもに起こりやすい事故,子どもの特徴から治療に関連した事故,検査や処置に関連した事故,生活の中で起こる事故,子どもの事故を防ぐための看護  まとめ		

教科書	1.「ナースング・グラフィカ(28)小児看護学;小児の発達と看護」中野綾美編(メディカ出版) 2.「ナースング・グラフィカ(29)小児看護学;小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント 3-4 章 2 節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子(メディカ出版)2004.

授業科目名	母性看護学総論	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	地域や家庭・家族を含めた生涯を通して性と生殖に関する母性看護の役割を理解する。
学習到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の性の周期性の変化について口答で説明ができる。
関連科目	教養科目群 生命倫理 家族学 専門基礎科目群 解剖学 解剖学 生理学 栄養学 免疫・感染症学 疾病の成り立ち 薬理学 専門科目群 看護の専門科目
成績評価方法	出席状況 課題レポート 試験(臨時 定期)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母性看護の概念	母性(父性)とは、セクシュアリティ・リプロダクティブヘルツ/ライツ ジェンダーなど	母性看護の概念 A 母性看護のおもな概念 a 母性とは b ジェンダー c 家族の発達 B 母性看護と倫理 a 妊産婦・胎児および新生児の権利と擁護 b 自己決定の尊重 c プライバシーの保護 C 母性看護と法整備 a 地域における子育て支援 b 就労と母性 C 母体保護法 d 母子保健法	
-	母性看護の機能と役割	母性看護とは 意義・役割・現状・今後の課題と展望		
2	母性看護の変遷と諸施策	母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策を学ぶ。		
3	生殖器の形態・機能	生殖器の形態・機能 女性外性器・内性器 男性生殖器 女性生殖器の機能 月経周期 調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化 * 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 内分泌・健康障害など		
-	受胎のメカニズム	受胎のメカニズム 染色体・遺伝子	人間の性と生殖 A 人の発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子 B 性周期と生殖機能のメカニズム a 性周期とホルモン b 受胎のメカニズム	
5	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン		
6-7	女性のライフサイクルと健康	女性のライフサイクルの変化 高齢化・少子化 多様化する女性のライフスタイル ・高学歴化及び晩婚化・労働力率 ・新婚期・育児期・発展期・充実期・向老期・老年期  ライフサイクル各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期	1. 女性のライフサイクル各期における看護 A 思春期にある人々の看護 a 第二性徴 b 心理的特徴 B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義 b 不妊治療と看護	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	まとめ	まとめ	C更年期にある人々の看護 aホルモンの変化と閉経 b骨粗しょう症の予防	

教科書	「母性看護学 母性看護学概論」森恵美他（医学書院）
参考書	必要時提示する。

授業科目名	母性看護学	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。
学習到達目標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。
関連科目	教養科目群：生命倫理 家族学 環境学 看護学のための生物学 専門基礎科目群：発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）
成績評価方法	課題に対するレポート、定期試験、出席状況、学習態度にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。	母性看護学 目標 . ライフサイクル各期における女性のリプロダクティブヘルスの維持増進、必要な基礎的知識を問う。 4. 周期にある人と家族の看護 A. 妊婦の看護 b. 妊婦の心理 d. 妊婦の日常生活とセルフケア f. 親役割の準備	
2 - 6	母子保健と環境 - 母子と健康生活	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因：恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因：経済、教育、文化、医療など ・環境的要因：自然環境、人為的環境など ・身体的要因：栄養、喫煙、飲酒など		
7	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。		
8 - 12	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。	3. 女性のライフサイクル各期における看護 A. 思春期・成熟期・更年期 C. 女性のリプロダクティブヘルスの課題と看護 c. 性感染症	
13	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。	4. 周産期にある人と家族の看護 A. 妊婦の生理と妊婦の看護 c. 妊娠と不快症状 e. 出産・育児の準備	
14	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。	C. 産褥の生理と褥婦の看護 c. 褥婦の日常生活とセルフケア	
15	全体のまとめ		1. 母性看護の概念 C. 母性看護と法整備 a. 子育て支援 B. 母性看護と倫理	

教科書	「妊・産・褥婦のよくあるトラブル」早川有子(医学書院) 「母性看護学 母性看護学各論」 森恵美他(医学書院)
参考書	必要時提示する。

授業科目名	精神看護学総論	単位認定者	齋藤和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人として生きていく上で、心がいかに大きな働きをもつか正しく理解するために、心の発達と健康、心の育みに影響を与える内外の環境のありようを学び、精神保健の位置づけ及び機能について理解する。
学習到達目標	1.心の身体との関連を知る。 2.心の健康と障害の捉え方、社会化とメンタルヘルスの関係、精神に障害をもつ人が感じる世界、その援助の本質を理解できる。
関連科目	「解剖学」、「解剖学」、「発達心理学」、「精神看護学」、「精神看護学」他
成績評価方法	定期試験、授業の中で指示した提出課題、出席状況によって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	心とは	脳と心 心(精神)と身体と関係	目標1-1精神の健康 A:精神の構造 B:精神の機能と障害	
2	精神看護学の考え方	心の健康・不健康、心の病気の考え方、精神看護学における看護師の役割	目標1-1精神の健康 C:クライシス D:リエゾン 目標2-1精神看護の基本 概念 D:看護モデル	
3	心の健康	心の健康維持	目標2-1精神看護の基本 概念 A:生物学的モデル B:精神分析モデル	
4	心の発達と健康	心の発達理論 成長各期の発達	目標2-1精神看護の基本 概念 C:成長発達モデル	
5	人間関係と心の働き	人間関係の中での心の問題 心の問題への対応	目標1-1精神の健康 C:クライシス D:リエゾン 目標2-1精神看護の基本 概念 D:看護モデル	
6	環境と心の働き	環境と心の健康、教育の場の心の健康、職場と心の健康、地域社会と心の健康	目標2-1精神の健康 C:成長発達モデル	
7	危機状況と心の働き	発達段階での危機の諸相と危機介入、医療現場における危機の諸相、災害時など特殊な状況における危機の諸相	目標2-1精神看護の基本 概念 C:成長発達モデル 目標2-2看護援助技法 B:精神状態・問題行動と看護援助方法	
8	まとめ			

教科書	「新体系看護学 34 精神看護学 精神看護概論・精神保健」佐藤壹三(メヂカルフレンド社)
参考書	

授業科目名	精神看護学	単位認定者	松岡治子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義, 演習(看護過程)
科目の目的	精神に障害をもつ人に見える世界・心情を科学的にも説明することができて, その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。
学習到達目標	1. 精神に障害をもつ人と偏見なく関わられる。 2. 自分の心の問題と関連させて精神障害を考えられる。 3. 精神の健康な部分と病的部分とを正しく見分けられる。 4. 精神に障害をもつ人個々に必要な看護を科学的説明できる。
関連科目	「精神看護学総論」「精神看護学」「心理学」「地域社会学」「解剖学」「疾病の成り立ち」「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護過程論」
成績評価方法	定期試験と授業の中で指示した提出課題

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について概説する。精神保健福祉法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者 看護者関係、観察のポイント等について概説する。	目標 3-1 精神医療看護の歴史と人権 A. 精神医療看護の変遷 a: 欧米における精神医療の歴史 b: 日本における精神医療の歴史 C: 精神医療における看護師の役割 B. 患者の権利 a: インフォームド・コンセント b: 行動制限 c: 隔離室の使用 C. リスクマネジメント a. 自殺・自殺企図 b. 転倒 c. 誤飲 d. 誤薬 e. 院内感染	
4				
5	精神状態・症状別看護援助	人間の持つ精神機能について概説する。また、精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、さまざまな状態像にある看護について概説する。	目標 2-2 看護援助技法 A. 症状アセスメント a. 不安 b. 抑うつ c. 幻覚 d. 妄想 e. 強迫 f. せん妄 g. 痴呆 h. 離脱症状 B. 精神状態・問題行動と看護援助方法 a. 不安緊張状態 b. ひきこもり状態 c. 抑うつ状態 d. 躁状態 e. 幻覚妄想状態 f. 意欲減退状態 g. 不眠状態 h. 拒絶・拒否 i. 攻撃的行動 j. 操作・試し行為 k. 強迫行為	
10				
11	精神の健康障害と看護援助 ・統合失調症患者の看護 ・感情障害患者の看護	統合失調症の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。統合失調症の精神病理、発症の背景、統合失調症の治療 統合失調症のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、昏迷など)にある患者に対する援助の方法について説明する。 軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。躁鬱病の精神病理、発症因子、躁鬱病の治療	目標 2-3 精神科治療と看護【必修問題(a. うつ b. 統合失調症)】 A. 精神疾患の診断基準 a. 統合失調症 b. 気分障害 c. 神経症および心因反応 d. 人格障害 e. 物質(アルコール、薬物)関連障害 f. ストレス関連障害 g. 器質性精神疾患 h てんかん. i. 心身症	
14				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	・神経症性障害患者への看護	神経症性障害の看護援助について事例を通して概説する。		
16	・アルコール依存症の看護	アルコール依存症の看護について概説する。		
17	リエゾン精神科看護	精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者 看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。家族への支援について概説する。	目標 1-1 精神の健康 D. リエゾン精神看護 a. 身体疾患をもつ患者の精神の健康 b. 患者・家族の精神の健康 c. 看護職者の健康	
18	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史的変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。  精神の健康上の問題をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて概説する。	目標 3-2 地域精神保健 A. 精神福祉の法制度 a. 精神保健福祉法の基本的考え方 b. 精神保健福祉法による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. ホムヘルプサービス B. 社会復帰・社会参加 a: 社会復帰施設 b: デイケア c: 小規模作業所 d: グループホーム e: 生活支援センター f: セルフヘルプグループ C. 地域生活支援の技術 a. 生活技能訓練 SST (Social Skill Training) b. 訪問看護 c. ケアマネ - ジメント d. 看護相談面接 D. 生活の場と精神保健 a. 家庭(育児ノイロゼ, 介護疲れ, 虐待) b. 学校(不登校, いじめ, 無気力) c. 職場(パワハラ, 自殺, 過労死)	
19	事例展開	事例(統合失調症、うつ病事例)を用いた看護過程の展開: グループワークと発表により看護診断について学習する。	目標 2 - 2 看護援助技法 A 症状アセスメント B 精神状態・問題行動と看護援助方法  目標 2 - 3 精神科治療と看護 A 精神疾患の診断基準 B 臨床検査 C 身体療法 D 精神療法 E 活動療法 F 治療環境	
20	発表・まとめ			
29				
30				

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「精神障害者のクリニカルケア」川野雅資・長野勝(メヂカルフレンド社)</li> <li>・「精神看護学」田中美恵子(医歯薬出版)</li> <li>・「ナ - シニグ・グラフィカ 32 精神看護学 - 情緒発達と看護の基本」出口禎子(メディカ出版)</li> </ul>

授業科目名	地域看護学概論	単位認定者	大野 絢子
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	2 単位 ( 3 0 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	1 地域看護の概念と役割について理解する。 2 地域の人々の健康を守る地域看護活動の方法について理解し、今後の活動について展望する。
学習到達目標	1 地域看護の概念と歴史の変遷を理解する。 2 地域看護をめぐる保健医療福祉施策と職種を理解する。 3 地域看護の法的基盤を理解する。 4 看護職者の職業倫理を理解する。 4 地域看護の役割、活動の特徴と成立条件を理解する。 5 地域看護の対象と活動の場の特徴を理解する。 6 地域看護活動の方法を理解する。
関連科目	教養科目群：発達・行動・心理、人と社会・生活、 専門基礎科目群：公衆衛生学、疫学に開講されている全科目、社会福祉・社会保障制度論に開講されている全科目、地域保健行政 専門科目群：基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、統合分野
成績評価方法	定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	(学校保健) 養護教諭の職務	・地域看護の概念 ・公衆衛生活動と地域看護活動 ・学校保健活動、産業保健活動 ・在宅医療、包括医療(総合保健医療)と看護の継続性 ・プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーション、ICIDH、自己決定、住民参加、アドボカシー、男女共同参画、パートナーシップ	必修問題 目標 .看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 9. 主な看護活動展開の場と看護の機能 B. 保健所・市町村保健センターにおける業務	【地域看護学】 1. 地域看護学の成立基盤 B. 公衆衛生看護活動の理念・目的 C. 基本概念とその活用 2. 地域看護学の構成 A. 活動領域
3 4		・地域看護の発祥と歴史 明治～大正初期・昭和初期～現在の概要	B. 保健所・市町村保健センターの業務 C. 地域・在宅での看護	1. 地域看護学の成立基盤 A. 地域看護の変遷と意義
5 6		・包括医療と看護の継続性 ・保健医療福祉施設 ・保健医療福祉従事者	a. 在宅看護 b. 訪問看護ステーション c. 介護保険施設 d. 地域包括支援センター	3. 社会環境の変化と健康課題 A. 社会情勢の変遷
7 8		・保健師助産師看護師法における保健師業務 ・WHO(世界保健機構)とWHO 憲章 ・ODA(政府開発援助)、NGO(Non-government Organization)、NPO(Non-profit Organization) ・専門職とは、専門看護師(地域看護) ・看護職者の倫理綱領、ICN 規律 ・公務員法 等	社会保障制度と生活者の健康 目標 .公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 11. 保健活動	3. 社会環境の変化と健康課題 A. 社会情勢の変遷 B. 国際交流、国際協力 C. 健康に影響する生活環境と社会要因
9 10		・地域看護の役割 ・地域看護活動の特徴 ・地域看護活動の成立条件	11. 保健活動 A. 地域保健 a. 地域保健法の理念と指針 b. 健康日本 21 c. 健康増進法 d. 市町村保健センター e. 保健所	2. 地域看護活動の構成
11 12		・個人・家族・集団・地域の特性と対応 ・行政機関(市町村・保健所) ・保健師活動指針・施策化 ・福祉関係機関・事業所・学校		2. 地域看護学の構成 B. 活動対象 A. 活動領域
13 14 15		・家庭訪問、健康相談、健康教育、地区組織活動、集団健診 ・活動方法の多様性 ・対象に合わせた方法の選択 ・活動方法相互の関連づけ、有機的な連携と統合した活動 ・厚生労働省通知「保健師活動指針」		2. 地域看護学の構成 C. 活動方法 4. 地域の人々の保険関連行動 A. 健康課題への個人の対処行動 B. 健康課題への地域としての対処

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
16	(学校保健) 養護教諭の職務	養護教諭制度の沿革、養護教諭の職務内容の変遷、 学校教育における養護教諭の役割		1-A-a)学校保健・看護の定義 b)養護教諭の役割・機能 B-a)学校看護職の誕生、社会背景 b)戦後の学校保健、養護教諭の活動 c)学校保健・看護活動の実態 C-a)学校保健に関する法体系 b)学校保健組織と人材 c)保健室の機能、保健室運営 d)安全管理、危機管理 e)学校給食 E-a)学校保健計画 F-a)環境調整の意義 b)環境管理 c)環境教育 d)地域保健、産業保健との連携
17	学校保健(1)	学校保健法、学校保健の領域、学校保健のしくみ		
18	学校保健(2)	学校保健情報と健康実態の把握、 学校保健目標と学校保健計画 学校保健組織活動		
19	養護教諭の職務の実際(1)	保健室の機能と運営 学校環境衛生活動		
20	養護教諭の職務の実際(2)	健康診断 健康相談、疾病の予防と管理		E-b)健康診断と事後措置 d)感染症の予防・対策
21	養護教諭の職務の実際(3)	健康観察 救急処置と救急体制		E-e)個別援助 D-a)発達段階別健康課題 b)不登校 c)障害児 d)いじめ
22	養護教諭の職務の実際(4)	健康相談活動		
23	養護教諭の職務の実際(5)	保健教育活動		E-c)健康教育
24	(産業保健)	産業保健・看護の定義、産業看護職の機能		A-a)産業保健・看護の変遷、社会背景 b)産業保健・看護活動の実態
25	産業保健・看護の理念と目的 産業保健・看護の歴史と現状 産業保健・看護の制度とシステム	産業保健・看護に関連する健康問題や支援の歴史的経緯と今日のヘルスニーズ 労働安全衛生に関する法体系 産業保健組織とスタッフの役割 健康支援を行う関連機関		C-a)労働安全衛生に関する法体系 b)産業保健組織と人材 c)産業保健・看護と社会資源
26	産業保健・看護における	職業性疾患の種類と予防対策		D-a)職業性疾患の種類、予防対策 b)作業関連疾患の種類、予防対策 c)職場のメンタルヘルスクア、ストレス対策 d)職場の安全管理
27	主な健康課題と対策	作業関連疾患の種類と予防対策 職場のメンタルヘルスクア・ストレス対策 職場の安全管理		
28	産業保健・看護の役割・	産業看護職の役割		E-a)保健師の職務 b)産業保健計画と評価 c)個別的・集団的・組織的展開方法 d)地域保健との連携
29	特徴と活動の展開	産業保健計画と評価 個別的・集団的・組織的展開方法		
30	まとめ	まとめ		

教科書	・「標準保健師講座1 地域看護学概論」奥山則子 他(医学書院) ・「国民衛生の動向」(財団法人厚生統計協会)
参考書	「最新保健学講座1 地域看護学概論」金川克子編(メヂカルフレンド社)

授業科目名	地域看護学	単位認定者	小林 亜由美
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 ( 3 0 コマ )	必修・選択	必 修

指導方法	講義・演習
科目の目的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、家庭訪問、健康教育、地区組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。
学習到達目標	1. 健康相談の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。 2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを展開できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法がわかる。 3. 健康教育の概念と理論を理解し、個人及び集団を対象とした健康教育を展開できる。 4. 地区組織活動支援の意義、地区組織活動支援に活用される理論、地区組織活動支援の方法がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護学、地域看護学、地域看護学、地域看護学特論
成績評価方法	試験、演習内容、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	健康相談 1	健康相談の意義と目的	基礎看護学 目標 2-1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション技術 b) カウンセリング技術 B. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導	地域看護学 1. 発達段階、健康レベルと保健サービス A. 保健サービス a) 各発達段階における健康レベル別個人・家族及び小集団の健康課題と必要な接近技法・技術 b) 各発達段階における健康レベル別個人・家族に必要な保健サービス B. 各種サービスの活用 a) 各発達段階における健康レベル別各種保健サービスの特性・活用 b) 地域の健康特性と各種保健サービスの適用・優先順位 4. 健康相談 A. 健康相談・健康診査の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理 c) 相談・健康診査場面の設営・面接技術 B. すずめ方 a) 地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案 b) 参加対象と参加動機 c) 実施準備・実践・評価 d) 事後フォローアップ e) 参加対象への自立支援・組織化 3. 家庭訪問 A. 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 地域看護学 4. 地域の人々の保健関連行動 A. 個人の対処行動 a) セルフケア行動 b) ウエルネス行動 c) 学習行動 d) 支援行動 e) 求援行動 f) 病気への対処行動 g) 受療行動 h) 遵守行動 地域看護学 3. 家庭訪問 B. 家庭訪問の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象特性 c) 初回・継続・拒否等への訪問技術 C. すずめ方 a) 情報収集と問題把握 b) 対象選定と優
2	健康相談 2	健康相談の対象		
3	健康相談 3	健康相談の技術		
4	健康相談 4	健康相談の実施方法		
5	健康相談 5	健康相談の実施方法 ( 演習 )		
6	健康相談 6	"		
7	家族保健指導 1	家族の発達課題、家族の持つ保健機能	社会保障制度と生活者の健康 目標 1-1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族 ( 世帯 ) c) 家族周期 ( ライフサイクル ) B. 家族生活の基本機能 a) 生産・労働 b) 教育・養育 c) 保健・福祉 d) 生殖 e) 慰安・交流	地域看護学 1. 発達段階、健康レベルと保健サービス A. 保健サービス a) 各発達段階における健康レベル別個人・家族及び小集団の健康課題と必要な接近技法・技術 b) 各発達段階における健康レベル別個人・家族に必要な保健サービス B. 各種サービスの活用 a) 各発達段階における健康レベル別各種保健サービスの特性・活用 b) 地域の健康特性と各種保健サービスの適用・優先順位 4. 健康相談 A. 健康相談・健康診査の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理 c) 相談・健康診査場面の設営・面接技術 B. すずめ方 a) 地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案 b) 参加対象と参加動機 c) 実施準備・実践・評価 d) 事後フォローアップ e) 参加対象への自立支援・組織化 3. 家庭訪問 A. 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 地域看護学 4. 地域の人々の保健関連行動 A. 個人の対処行動 a) セルフケア行動 b) ウエルネス行動 c) 学習行動 d) 支援行動 e) 求援行動 f) 病気への対処行動 g) 受療行動 h) 遵守行動 地域看護学 3. 家庭訪問 B. 家庭訪問の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象特性 c) 初回・継続・拒否等への訪問技術 C. すずめ方 a) 情報収集と問題把握 b) 対象選定と優
8	家族保健指導 2	家族の問題把握と診断、家族支援		
9	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象		
10	家庭訪問 2	家庭訪問計画の作成、訪問準備、訪問目的の伝え方		
11	家庭訪問 3	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導		
12	家庭訪問 4	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法		
13	家庭訪問 5	家庭訪問場面 ( 演習 )		
14	家庭訪問 6	"		
15	家庭訪問 7	家庭訪問場面 ( 演習 )		
16	家庭訪問 8	"		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17	健康診査 1	健康診査の意義、地域で行われる各種健康診査の目的・対象・方法	基礎看護技術 目標 2-1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 c) グループワーク、グループダイナミクス B. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導	先順位 c) 訪問指導計画、訪問準備・実践・評価 e) 関係機関・職種との連携、社会資源の活用 d) 訪問記録、報告 2. 保健指導 A. 目的と各接近技法・技術の特色 a) 個別・集団の接近技法の各目的・特性 b) 個別・集団指導の種類・特色 B. 保健指導における役割 a) 個別・集団指導と援助者の基本姿勢 b) 対象選定と優先順位 4. 健康相談 A. 健康相談・健康診査の目的と対象、技術 a) 目的、特性 b) 対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理 c) 相談・健康診査場面の設営・面接技術 B. すずめ方 a) 地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案 b) 参加対象と参加勧奨 c) 実施準備・実践・評価 d) 事後フォローアップ e) 参加対象への自立支援・組織化 5. 健康教育 A. 目的と対象、技術 a) 健康教育の目的、特性 b) 対象、種類と特性 c) 健康教育に用いる基礎理論 B. すずめ方 a) 地域のニーズ把握・アセスメント、事業の立案 b) 参加対象と参加勧奨 c) 指導案づくり・媒体の工夫 d) 実施準備・実践評価 e) 事後フォローアップ f) 参加対象への自立支援・組織化 地域看護学 5. グループ支援、組織化 A. グループの役割・機能 a) グループの種類と機能 b) グループの発展過程 c) グループダイナミクスの理論 d) グループ支援における保健師の役割 B. グループメンバー個々人の変化とグループ全体の変化 a) 主体性の確立 b) 自己洞察の深まり c) エンパワメント C. グループの育成支援と組織化 a) グループの育成と組織化支援 b) セルフヘルプグループの特徴と支援方法 c) 健康学習を促進する媒体、人的つながり D. 住民組織・地区組織 a) 組織の育成・支援 b) 地域住民の自助、互助および共同活動の把握と推進 c) 専門職、行政職、他の住民組織等との連携 E. グループ支援と地域活動への発展・貢献 a) グループ間での情報共有とネットワーキング b) 共同事業・共同活動の発展と支援 c) 民間、NPO 支援 保健医療福祉行政論 3. 地域保健福祉行政と保健師活動 E. 地域単位の保健師活動と連携 a) 保健医療福祉の連携と提供 b) 地域ケアコーディネーションと地域支援 c) 組織育成と地域内関係機関の組織化
18	健康診査 2	健康診査事業の展開方法と保健師の役割		
19	健康教育 1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論		
20	健康教育 2	健康教育の対象・方法		
21	健康教育 3	健康教育の展開過程		
22	健康教育 4	"		
23	健康教育 5	健康教育計画と指導案		
24	健康教育 6	"		
25	健康教育 7	健康教育の評価		
26	健康教育 8	"		
27	地区組織活動支援 1	地区組織活動の意義と目的		
28	地区組織活動支援 2	地域住民の自助と互助、地区組織・専門職・自治体の連携、社会資源の活用		
29	地区組織活動支援 3	地区組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方		
30	地区組織活動支援 4	"		

教科書	「最新保健学講座 2 地域看護支援技術」村嶋幸代編（メヂカルフレンド社）
参考書	

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 概 論	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	在宅看護の理念と目的、在宅ケアに関わる現状と今後の展望、在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり、ネットワークづくりについて理解する。グループワークによる探索的学習を交えて、在宅看護活動の本質と今後の展望を自ら思考する。
学 習 到 達 目 標	在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。
関 連 科 目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、地域看護学概論、地域看護学
成 績 評 価 方 法	筆記試験、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	在宅看護の特徴	在宅における看護活動 自立支援と看護 病状・病態の予測と予防 関係職種と社会資源 在宅療養者の権利保障 地域におけるケア提供機関	在宅看護論 目標 在宅看護の特徴と在宅療養者及び家族についての理解を問う 1.在宅看護の対象者とその生活 2.在宅看護の特徴	地域看護学 目標 学校保健、産業保健、在宅ケア・在宅看護、災害時の保健活動について、それぞれの理念と目的、制度とシステム、健康課題、展開方法についての理解を問う。
3	在宅療養者の権利保障と諸制度 在宅における倫理課題	在宅療養者の権利保障 / 在宅看護と諸制度、自己決定支援/権利擁護について講じる。		3.在宅ケア・在宅看護
4 5	在宅看護の展開	継続療養における在宅看護 在宅看護への接続・連携 / 専門職者との連携 在宅看護成立の条件 退院計画と継続看護【退院指導と退院計画、プランの共有、家族・患者の意思、退院計画実践方法】	目標 在宅における看護実践についての理解を問う 3.訪問看護ステーションの理解	A.在宅ケア・在宅看護の理念と目的 B.在宅ケア・在宅看護の歴史と現状 C.在宅ケア・在宅看護の制度とシステム D.在宅ケアのためのマネジメント E.訪問看護ステーション管理
6	在宅療養者と家族看護	在宅療養者と家族看護の特徴（理論と実際） 【家族の機能】【看護学における家族】		
7	地域で療養する人々と社会資源	在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり、地域で療養する人々を支える保健・医療・福祉 / フォーマル・インフォーマルなサービスの活用について講じる。		
8	訪問看護ステーションの機能と役割	訪問看護ステーションの機能と役割 / 事業経営について講じる。		

教 科 書	・「在宅看護論 実践をこぼにー第5版」杉本正子・眞船沢子（ヌーベルヒロカワ） ・最新保健学講座4 地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動（メジカルフレンド社） ・介護保険制度に関するパンフレット（1冊 100円程度） ・国民衛生の動向（厚生統計協会）
参 考 書	

授業科目名	在宅看護論	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	在宅看護の対象である療養者と家族について理解を深め、在宅看護活動の特質について学ぶ。また、関係機関の連携や在宅療養を支える社会資源について学び、それらを有効に機能させるための方法を学ぶ。さらに症状・状態別の看護や、特殊な処置・管理を要する在宅療養者への看護について理解する。
学習到達目標	1.在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。2.基本的な生活援助の技術を習得する。3.特種な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。4.家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。
関連科目	看護援助学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、地域看護学概論、地域看護学
成績評価方法	筆記試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	在宅療養者と家族支援1	在宅における生活支援の方法と技術 脳血管病患者、認知症者の支援、難病患者の在宅看護 ねたきり者の支援・在宅におけるターミナルケア	目標2-4 在宅における生活支援の方法と技術 食 排泄 清潔 移動	3-C-a) 関係する法体系 b) 組織と人材 E-a) 訪問看護のマネジメント管理 b) 地域ケアづくり c) 在宅看護の質評価・管理
2	在宅療養者と家族支援2	在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、吸引・気管切開のケア、経管栄養、在宅中心静脈栄養	目標2-5 在宅療養者の症状別看護 寝たきり者 認知症利用者 難病療養者 ターミナル期療養者	C-c) 社会資源 D-c) 介護の人的資源確保・開発 d) 介護の物的資源確保・開発 e) 在宅ケアのサービス活用・法的根拠
3	在宅療養者と家族支援3	CAPD療法、ストーマケア、褥瘡ケア 膀胱留置カテーテル管理 がん患者の痛みの治療法、	目標2-6 在宅における医療管理を必要とする人の看護 在宅酸素療法 在宅人工呼吸療法、吸引・気管切開のケア 経管栄養 在宅中心静脈栄養 膀胱留置カテーテル管理 がん患者の痛みの治療法、 事故防止(転倒防止、環境整備、窒息防止、熱傷防止) 感染対策、服薬管理	
4	在宅療養者と家族支援4	事故防止(転倒防止、環境整備、窒息防止、熱傷防止) 感染対策、服薬管理		
5	在宅看護演習	演習オリエンテーション		
6	在宅看護過程の展開	在宅看護の看護過程の特徴		
7		<演習内容> 在宅看護における看護診断 在宅看護過程の展開 訪問看護計画の作成 在宅看護の展開 演習報告会	グループ毎に、演習およびグループワークを行う。 詳細は、演習時に説明する。	
8				

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『在宅看護論 実践をこぼにー第5版』杉本正子・眞船沢子(ヌーベルヒロカワ)</li> <li>最新保健学講座4.地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動(メジカルフレンド社)</li> <li>国民衛生の動向(厚生統計協会)</li> <li>在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案(上武大学出版会)</li> <li>訪問看護サービス(日本訪問看護振興財団)</li> </ul>
参考書	

授業科目名	基礎看護学実習	単位認定者	真砂涼子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(1週間)	必修・選択	必修

指導方法	病院実習
科目の目的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者の反応が理解できることを目的とする。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の特徴と役割について理解できる。</li> <li>2. 病院組織内における看護部門の位置づけと役割について理解できる。</li> <li>3. 看護部門と他の医療部門との連携について理解できる。</li> <li>4. 病棟の特徴と看護体制について理解できる。</li> <li>5. 入院患者を取り巻く物理的環境・人的環境について把握できる。</li> <li>6. 患者の一日の入院生活について理解できる。</li> <li>7. 提供されている看護援助について、その根拠を考えながら見学することができる。</li> <li>8. 患者の訴えを傾聴し、気持ちを尊重した言動をとることができる。</li> <li>9. 患者との関わりの中から、自己の言動を振り返ることができる。</li> <li>10. 入院生活(闘病生活)に関する患者の反応が理解できる。</li> </ol>
関連科目	看護学入門、看護学概論の統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる
成績評価方法	出席状況(実習態度含む) 実習記録およびレポート、実習のまとめでの内容

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う。		
	病院実習	病院施設内の見学実習および病棟看護師と行動をともにしながら、入院患者の生活状況を把握したり、コミュニケーションの機会を設け患者の入院生活に関する反応を理解したりする。		
	実習のまとめ	病院実習で学んだことについての報告、レポート作成		

教科書	「看護学概論」川村佐和子(メディカ出版) 基礎看護学実習 実習要項
参考書	

授業科目名	基礎看護学実習	単位認定者	城生弘美
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位(2週間)	必修・選択	必修

指導方法	病院実習
科目の目的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の展開ができる。</li> <li>2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。</li> <li>3. 相談、報告および看護の記録ができる。</li> <li>4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。</li> </ol>
関連科目	看護学入門、看護学概論、看護過程論、看護援助学、看護援助学演習の統合が必要である。3年次以降の教科目や実習の基盤となる。
成績評価方法	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して、説明を行う。実習単位に含まれるため、全員必ず出席し、実習に向けての準備を行う。		
	病院実習	病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者のもと看護援助を実施する。		
	学内合同カンファレンス	実習病棟を交えて、実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。		

教科書	基礎看護学で使用したテキスト全部、基礎看護学実習 実習要綱
参考書	